

## 電気通信普及財団賞(テレコム・コロンプス賞 システム技術部門)受賞論

### 平成03年 第1回 最優秀賞

論文	著者	所属	評価
<p>A small aperture single-layered Radial line slot antenna for DBS reception</p> <p>第7回アンテナと伝搬の国際会議(1991年4月イギリス)にて発表</p>	<p>高橋 応明 高田 潤一 安藤 真 後藤 尚久 鈴木 正則 岡崎 康弘 沼野 雄司</p>	<p>東工大学理工学研究科博士1年 同 博士3年 東京工科大学工学部助教授 同 教授 凸版印刷(株)精密電子事業部 同 同</p>	<p>高能率な平面アレイアンテナである反面、構造が二層で複雑であるためコスト・精度に難点のあったラジアルラインスロットアンテナにおいて、構造が簡単で高能率な一層構造ラジアルラインスロットアンテナ(SL-RLSA)を実現するための最適設計法を明らかにし、特性、コストの両面で、従来のパラボラアンテナを凌ぐSL-RLSAを実現している。本設計法は、国際会議でも発表され既に商用化もなされており、工学的有効性が極めて高い研究内容である。</p>

### 平成03年 第1回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>Reliable Broadcast Protocol for Selectively Partially Ordering PDUs(SPO Protocol)</p> <p>IEEE the 11th Int. Conf. On Distributed Computer Systems, 1991/5</p>	<p>中村 章人 滝沢 誠</p>	<p>東電大理工学博士後期課程 東京電機大学理工学部助教授</p>	<p>LAN等で既に提案されている放送通信サービスを用いて分散システムの実現に必須である。複数の実体間での放送通信を高信頼に実行するための通信プロトコルについて論じたもので、新たに提案した選択的放送通信の概念により、高信頼放送通信サービスを低コストで実現した将来への発展性が期待できる有用な研究内容である。</p>

### 平成03年 第1回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>On Group-delay sensitivity properties of complex allpass lattice filters</p> <p>IEICE Trans. Fundamentals '91/11</p>	<p>SAMADI SAED 西原 明法 藤井 信生</p>	<p>東工大理工学研究科博士課程1年 東京工業大学工学部助教授 同 教授</p>	<p>複素数の乗算器係数を有する一般的なオールパスラチス回路の群遅延感度を解析し、ハードウェア制限が群遅延に与える影響を回路パラメータを用いて示している。厳密な設計を実現する指標として群遅延に着目した独創性の高い論文でその理論解析結果の応用が期待される。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコム・コロンプス賞 システム技術部門)受賞論

### 平成03年 第1回 入賞

論文	著者	所属	評価
A Design of a High-Density Multi-Level Matching Array Chip for Associative Processing  IEICE Trans., Vol.E '91/4	羽生 貴弘 石井 博人 樋口 龍雄	東北大学工学部助手 (株)野村総合研究所 東北大学工学部教授	連想処理において重要となる「データ間の関連性の強さ」を多値論理に基づいて定式化するとともに、多値演算に適したデバイスを積極的に活用することにより、高速化と高密度性を同時に満たす連想メモリの実現を可能にしたもので、次世代ポストバイナリエレクトロニクスを指向した独創性の高い研究内容である。

### 平成03年 第1回 入賞

論文	著者	所属	評価
Omni-directional Stereo for Making Global Map  Proc. 3rd Int. Conf. Computer Vision, 1990	石黒 浩 山本 雅史 辻 三郎	山梨大学工学部助手 マツダ(株)横浜技術研究所 大阪大学基礎工学部教授	回転台に搭載した1台のカメラを正確に回転させることにより、全方位の視覚情報と距離情報を同時に含む全方位画像の撮像方法を提案し、更に、この全方位画像を用いて室内環境の3次元構造とロボットの移動経路を復元したものであり知的機械の環境認識に新分野を開拓した優れた研究内容である。

### 平成03年 第1回 入賞

論文	著者	所属	評価
Remezアルゴリズムを用いたデジタル全域通過回路の設計  信学論 '91/7 A Vol.J74-A No.7	池原 雅章 船石 昌明 黒田 英夫	長崎大学工学部講師 長崎大学工学部大学院修士課程 長崎大学工学部教授	位相歪みの補償を行う全域通過回路の設計方法に関して、位相近似問題を振幅近似問題に置き換えこの振幅誤差にR-emezのアルゴリズムを適用するアイデアにより、計算量の少ない効率的な設計手法を提案した新規性のある大変優れた研究である。



## 電気通信普及財団賞(テレコム・コロンプス賞 システム技術部門)受賞論

### 平成03年 第1回 入賞

論文	著者	所属	評価
マルチプロセッサ構成による知的画像符号化のためのリアルタイム表情合成  信学論D- II Vol.J73-D- II No.10 1990-10	森島 繁生 小林 誠司 原島 博	成蹊大学工学部助教授 ソニー(株) 東京大学工学部教授	知的画像符号化方式における受信側処理をリアルタイムで実行するハードウェア構成に関するものであり、マルチプロセッサ構成によるパイプライン方式を基本とした表情合成を行う手法を提案したものである。知的符号化のハードウェア構成としては、初めての試みであり、同分野の研究活性化への糸口となった優れた研究内容である。

### 平成03年 第1回 佳作

論文	著者	所属	評価
スプライン近似による窓関数の設計法  信学論A Vol.J73-A No.11 1990-11	寅市 和男 河本 隆一 鎌田 賢 石井 六哉	筑波大学電子情報工学系教授 筑波大学大学院修士課程 筑波大学電子・情報工学系講師 横浜国立大学工学部教授	有限離散フーリエ解析に不可欠な、窓関数にスプライン関数を用いる方法を提案し、従来のKaiser-Bessel窓、Gauss窓、Hanning窓、よりも優れた特性を持つ窓関数の設計を可能としたものであり、系統的な窓関数の設計法を導いた優れた研究内容である。

### 平成03年 第1回 佳作

論文	著者	所属	評価
階層型神経回路網のデジタル構成におけるビット数低減方法  信学論D- II Vol.J73-D- II No.8 1990-8	中山 謙二 猪股 悟 竹内 由幸	金沢大学工学部教授 三菱電機(株)通信機製作所 三谷産業	デジタル形神経回路網の結合重み及びユニット出力を表現するビット数を大幅に低減できる学習法を提案し、雑音混入パターンの認識において結合重みを3~8ビット、ユニット出力を1.0の2値で表現しても高い認識率が得られており、神経回路の小型化を可能とした将来性のある修士研究の内容である。





## 電気通信普及財団賞(テレコム・コロンプス賞 システム技術部門)受賞論

### 平成04年 第2回 入賞

論文	著者	所属	評価
様相論理式による基本プロセスの合成アルゴリズム  電子情報通信学会論文誌 D-I Vol.J75-D-I No.11 1992-11(掲載予定)	木村 成伴 富樫 敦 野口 正一	東北大学博士課程1年 東北大学電気通信研究所助教授 東北大学応用情報学研究センター教授	通信プロトコルの自動合成に関連して、様相論理式を用いたプロセスの具体的な例示からプロセスの骨格を自動合成する実際的なアルゴリズムを提案した、新規性のある優れた研究内容である。

### 平成04年 第2回 入賞

論文	著者	所属	評価
視標追跡による手の運動機能のファジー表現  電子情報通信学会論文誌 D-II Vol.J74-D-II No.6 1992-6	中村 政俊 小野 英明 柴崎 浩	佐賀大学工学部教授 (株)富士通研究所 京都大学医学部教授	脳疾患患者に対する運動機能の検査・判断方法の一つとして、視標追跡法による検査を用い、人の判断の曖昧さを考慮したファジー推論の構造を判断部分に導入したモデルの提案を行うなど、着想の良い新規制のある優れた研究内容である。

### 平成04年 第2回 入賞

論文	著者	所属	評価
$\theta-\rho$ ハフ変換平面からの2次曲線のパラメータ抽出  電子情報通信学会論文誌 D-II Vol.J74-D-II No.9 1991-9	藤本 公三 岩田 剛治 仲田 周次	大阪大学工学部助教授 大阪大学大学院後期課程1年 大阪大学工学部教授	線画像中に存在する2次曲線のパラメータを直線のパラメータ抽出に用いられる $\theta-\rho$ ハフ変換平面から効率的に抽出する新たな方法を提案した研究であり、2次曲線のパラメータ抽出が同一処理で可能な点及び部分曲線からのパラメータ抽出等優れた点が多く、応用分野の広い研究成果である。

## 電気通信普及財団賞(テレコム・コロンプス賞 システム技術部門)受賞論

### 平成04年 第2回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>三角平面パッチを用いた多階調画像データの圧縮</p> <p>電子情報通信学会論文誌 D-II Vol.J75-D-II No.6 1992-6</p>	<p>山崎 一生 長谷川 誠 五十嵐 智 岡田 貞実</p>	<p>新潟大学工学部教授 新潟大学修士課程2年 日本ユニシス(株) 写研(株)電子制御グループ</p>	<p>多階調の画像データを圧縮する三角平面パッチ方式をベースに、ブロック境界における輝度段差によるブロック歪みを補正する方法を提案した研究であり、今後、他の画像圧縮方式に与える影響も少なくない、斬新なアイデアの感じられる優れた研究内容である。</p>

### 平成04年 第2回 佳作

論文	著者	所属	評価
<p>向日性による樹木の自然な枝振りのCGシミュレーション</p> <p>電子情報通信学会論文誌 D-II Vol.J75-D-II No.1 1992-1</p>	<p>金丸 直義 千葉 則茂 高橋 清明 斎藤 伸自</p>	<p>NTT 岩手大学工学部教授 富士通(株) 東北大学工学部教授</p>	<p>従来から行われているシミュレーション手法に加え、向日性を考慮した生長モデルを提案し、自然の樹木に見られる特徴的な形状をよくシミュレートすることを実現した着眼点の良い優れた研究内容である。</p>

### 平成04年 第2回 佳作

論文	著者	所属	評価
<p>長時間心電図デジタル記録のための実時間データ圧縮</p> <p>電子情報通信学会論文誌 D-II Vol.J75-D-II No.8 1992-8</p>	<p>高橋 幸郎 牛房 浩行</p>	<p>埼玉大学工学部 助教授 オリンパス光学工業(株)</p>	<p>長時間心電図のデジタル記録のための実時間データ圧縮法の考案から、実際の圧縮機能付き記憶装置の試作におよぶ完成度の高い優れた研究内容である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成05年 第9回 入賞 論文番号:019

論文	著者	所属	評価
<p>Theory and Performance of Frequency Assignment Schemes for Carriers with Different Bandwidths under Demand Assignment SCPC/FDMA Operation</p> <p>IEICE TRANS. COMMUN. Vol.E75-B</p>	<p>千葉 健一郎 高畑 文雄 野原 光夫</p>	<p>NEC(株) 早稲田大学理工学部教授 (株)ATR</p>	<p>デマンド割り当て方式に基づくSCPC/FDMAシステムの新しい周波数割り当て方式を提案し、その特性を詳細に検討した論文であり、衛星通信システムに有用な周波数の効率的割り当てに関して、重要な結論を得た優れた研究成果である。</p>

平成05年 第9回 入賞 論文番号:027

論文	著者	所属	評価
<p>A proposal of High Speed and Low Power Data Transmission Method for VLSIs by Reduced-swing Signal</p> <p>IEICE Trans. Fundamentals, Vol.E76-A No.10 1993</p>	<p>池田 誠 浅田 邦博</p>	<p>東京大学工学部博士課程1年 東京大学工学部助教授</p>	<p>集積回路中の信号伝搬速度と消費電力を同時に改善するため、信号伝搬路における信号振幅の最適化を利用したバス駆動方式を提案し、伝送方式の高性能化を達成した実用性のある優れた研究成果である。</p>

平成05年 第9回 入賞 論文番号:021

論文	著者	所属	評価
<p>誘電体上の補対形素子からなるFSSの散乱解析</p> <p>電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会での発表内容を応募論文として書き改めたもの</p>	<p>若林 秀明 小南 昌信 日下 浩次 中嶋 弘</p>	<p>住友電工(株) 大阪府立大学講師 同 教授</p>	<p>誘電体上の導体素子および開口素子からなる各種の周波数選択版(FSS)を対象に、導体上の誘起電流、開口面上の誘起磁流を決定する手法を示し、その解析結果から散乱特性を検討した論文であり、従来にない一般的知見と実用性のある研究成果を上げている。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成05年 第9回 入賞

論文	著者	所属	評価
インパルス性無線雑音下におけるレトリス符号化変調方式の受信特性と最適受信  電子情報通信学会論文誌 B-II Vol.J75-B-II No.10 1992-10	宮本 伸一 片山 正昭 森永 規彦	大阪大学博士課程 名古屋大学工学部講師 大阪大学工学部教授	インパルス性無線雑音がレトリス符号化変調を用いた無線通信システムに与える影響を理論的に解明し、通信理論的対策法を考案した論文であり、重要な問題を解明した優れた研究成果である。

平成05年 第9回 入賞

論文	著者	所属	評価
t重誤り訂正符号をもとにしたt重誤り訂正全一方向性誤り検出符号の一構成法  電子情報通信学会論文誌A Vol.J76-A No.1 1993-1	吉田 健二 地主 創 坂庭 好一	NTTデータ通信(株) 東京工業大学工学部助手 同 教授	光通信システムや計算機システムなどで問題となる一方向誤りに対し、新しい視点からt-EC/AUED符号を捉え直し、従来の符号性能を上回る構成法を示した論文であり、今後の研究の一つの方向性を提示した優れた研究成果である。

平成05年 第9回 入賞 論文番号:016

論文	著者	所属	評価
ATM網におけるバースト帯域予約方式による高速データ転送の性能評価  電子情報通信学会論文誌 B-I Vol.J76-B-I No.11 1993-11	若宮 直紀 馬場 謙一 村田 正幸 宮原 秀夫	大阪大学博士前期課程2年 大阪情報処理教育センター助手 大阪大学基礎工学部助教授 同	高速データ通信に適したATMの多重化方式として、新たに転送単位にバーストを導入し、バースト単位に帯域割り当てを行う「バースト帯域予約方式」を提案して、その評価を行った論文であり、原理的にセル損失のない高速データ転送にとって優れた方式を提案した新規制のある研究成果である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成05年 第9回 入賞 論文番号:022

論文	著者	所属	評価
一般化積符号とそのパフォーマンス	畑森 壽文 笠原 正雄	三菱電機(株) 京都工芸繊維大学教授	バースト誤りにも有効な積符号において、行ごとに異なる数種類のSEC-DED符号を用いることにより、従来の誤り訂正能力を超える誤りを「確率的に」訂正する手法を提案した論文であり、従来の符号理論の枠組にとらわれない、斬新で実用性のある研究成果である。
電子情報通信学会論文誌 B- I Vol.J76-B- I No.3 1993-3			

平成05年 第9回 入賞 論文番号:023

論文	著者	所属	評価
画像の適応的可変ブロック形状KL変換符号化	松田 一郎 伊東 晋 宇都宮 敏男	東京理科大学博士後期1年 東京理科大学助教授 同 教授	直交変換符号化を可変ブロックに適用し、さらには補間フィルタ、KL変換の手法などを用いて、符号化効率の向上を図る新しい符号化手法を提案し、従来の直交変換符号化を上回る性能と良好な再生画像を得た、意欲的な研究成果である。
電子情報通信学会論文誌 B- I Vol.J76-B- I No.5 1993-5			

平成05年 第9回 入賞 論文番号:002

論文	著者	所属	評価
ラジアルラインマイクロストリップアレーアンテナの放射特性	柴田 治 斉藤 作義 羽石 操	東芝情報通信システム研究所 埼玉大学工学部 同 教授	導波管アンテナの低損失性とマイクロストリップアンテナの設計性の良さを組合わせた、アレーアンテナに関する論文であり、高効率特性と小型化、ビームチルトなどの魅力ある新しい機能を有したアンテナを提案した優れた研究成果である。
電子情報通信学会論文誌 B- II Vol.J76-B- II No.1 1993-1			



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成05年 第9回 佳作 論文番号:015

論文	著者	所属	評価
A Linear Algorithm for Edge-Coloring Partial k-Trees  the First Annual European Symposium on Algorithms 1993に採録決定	周 暁 中野 眞一 西関 隆夫	東北大学博士課程後期2年 東北大学助手 同 教授	コンピュータネットワークにおけるファイル転送スケジューリング問題などに応用され、ネットワーク理論の重要な問題の1つである辺彩色問題を解く、極めて高速なアルゴリズムを提案した論文であり、理論的に優れた研究成果である。

平成05年 第9回 佳作 論文番号:006

論文	著者	所属	評価
オンライン処理による人間用ナビゲーションシステム  電子情報通信学会論文誌 A Vol. J76-A, No.5 1993-5	阿部 芳久 田所 嘉昭	ミル効巧(株) 豊橋技術大学教授	視覚障害者に位置情報を提供するため、超音波センサ、衝撃センサおよび地磁気センサによる推測航法システムを提案した論文であり、障害者を支援する社会的に有用な研究結果である。

平成05年 第9回 佳作 論文番号:017

論文	著者	所属	評価
de Bruijn network および Kautz network上の故障診断システムの構成と診断アルゴリズム  電子情報通信学会論文誌 D-I Vol.J75-D-I No.12 1993-12	柴田 幸夫 飯島 佐和子	群馬大学教授 (株)東芝	並列・分散ネットワークのモデルとしてよく知られている2つのネットワークに対して、同時故障診断可能であるようなtの上限を明らかにし、効率的な診断アルゴリズムを提案しており、理論的、実際的にも有用な卒業論文の効果である。



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成06年 第10回 入賞 論文番号:015

論文	著者	所属	評価
パス長制約を考慮したFPGA配置概略配線同時処理手法  情報処理学会論文誌 Vol.35 No.5 1994-5	戸川 望 佐藤 政生 大附 辰夫	早稲田大学大学院博士後期1年 早大理工学部電子通信学科 助教 同 教授	FPGAのレイアウト設計において、配置と概略配線を同時処理する手法を実現するためにFPGAの持つ規則性と対称性を積極的に利用した設計手法を提案した論文であり、FPGAの処理速度、性能の両面で向上を図った優れた研究成果である。

平成06年 第10回 入賞 論文番号:026

論文	著者	所属	評価
複素係数伝達関数における虚軸上の伝送零点の一実現法  電子情報通信学会論文誌 A Vol.J76-A No.11 1993-11	森本 悦朗 高橋 進一	(株)リコーIPS事業部第一開発室 慶應義塾大学理工学部教授	従来の実係数フィルタと比較して次数を約半分に低減できる特徴を有する一方、一般的な実現方法等研究の途上にある複素係数フィルタを実現する方法を提案した論文であり、理論、応用の両面から注目できる優れた研究内容である。

平成06年 第10回 入賞

論文	著者	所属	評価
複素係数伝達関数における虚軸上の伝送零点の一実現法  電子情報通信学会論文誌 A Vol.J76-A No.11 1994-11	森本 悦朗 高橋 進一	(株)リコー 慶應大学教授	従来の実係数フィルタと比較して次数を約半分に低減できる特長を有する一方、一般的な実現方法等研究の途上である複素係数フィルタを実現する方法を提案した論文であり、理論、応用の両面から注目できる優れた研究内容である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成06年 第10回 入賞 論文番号:004

論文	著者	所属	評価
ATM網に対する無線可変容量伝送方式適用の検討  電子情報通信学会論文誌 B-II Vol.J76-B-II No.8 1993-8	大内 幹博 李 嬉珍 小牧 省三 森永 規彦	松下電器(株)映像音響情報研究所 NTTワイヤレスシステム研究所  大阪大工学部電気工学科教授 大阪大学工学部通信工学科教授	無線ATM伝送路におけるトラヒック変動及びフェージング等に伴うセル廃棄の発生を改善する伝送方式を提案し、その性能評価を行った研究であり、国際会議でも発表した工学的に有意な研究成果である。

平成06年 第10回 入賞 論文番号:009

論文	著者	所属	評価
多層ニューラルネットによって構成された感情空間に基づく表情の分析・合成システムの構築  電子情報通信学会論文誌 D-II Vol.J77-D-II No.3 1994-3	上木 伸夫 森島 繁生 山田 寛 原島 博	ソニー(株)  成蹊大学助教授 川村短大助教授 東京大学教授	ニューラルネットワークを用いて、顔画像の表情分析・合成を同時に実現するシステムを構築し、さらに300人もの主観評価実験により、感情モデルの妥当性を確認した着想の良い優れた研究成果である。

平成06年 第10回 入賞 論文番号:023

論文	著者	所属	評価
ボロノイ線図法および逆2乗場モデルによる並列等高線情報処理法の高速化  電子情報通信学会論文誌 D-II Vol.J77-D-II No.7 1994-7	川島 深雪 徳永 隆治 平井 有三	筑波大学4年次  筑波大学助教授 同 教授	地形図で地図記号や文字などで分断された等高線を復元する補間方法及びこれを逐次型計算機で高速に処理できるアルゴリズムの開発に関する研究であり、今後のコンピュータによる情報処理研究への貢献が期待される実用的な研究成果である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成06年 第10回 入賞 論文番号:003

論文	著者	所属	評価
活性化入力対を用いた組合せ回路の多重縮退故障の診断に関する一考察  電子情報通信学会論文誌 D-I Vol.J77-D-I No.4 1994-4	柳田 宣広 高橋 寛 高松 雄三	愛媛大学院工学博士後期1年 愛媛大学工学部助手	情報通信システムに不可欠のVLSIIにおける故障診断理論およびその応用方法を提案し、さらにシミュレーションにより、その有効性を示した新規性のある優れた研究成果である。

平成06年 第10回 入賞 論文番号:002

論文	著者	所属	評価
大きな構造要素が使える画像の高速モルフォロジーハードウェア  電子情報通信学会論文誌 D-II Vol.J76-D-II No.6 1993-6	小島 昭二 海老澤 嘉伸 宮川 達夫	静岡大学院電子科学博士2年 静岡大工学部光電機械工学科助教授 同 教授	画像処理分野において、優れた特性を実現する可能性がある反面、スループットの高い情報への応用に課題のあるモルフォロジー処理に対して、画像の処理を高速化するアルゴリズムを提案し、さらにビデオ信号を実時間で処理するハードウェアも実現した、センスの良い工学的に有意な研究成果である。



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成07年 第11回 最優秀賞 論文番号:012

論文	著者	所属	評価
カルマンフィルタを利用した並列形適応IIRデジタルフィルタ  電子情報通信学会論文誌A Vol.J77-a No.12, 1994-12	曹 建庭 谷萩 隆嗣 呂 建明	千葉大学院自然科学博士課程 千葉大学教授 同 助手	並列形カルマンフィルタとその改良法がFIRフィルタを利用する点で発生するシステムサイズの問題を、IIRフィルタへの拡張と安定化アルゴリズムの検討により解決した。実時間処理を必要とするエコーキャンセラーへの適用可能な、通信分野において有効性をもった研究である。

平成07年 第11回 入賞 論文番号:008

論文	著者	所属	評価
Occasional Linear Connection for Synchronization of Chaos  IEEE Transactions on Circuits and Systems Part I, Vol.43, No.1 に掲載予定	鳥飼 弘幸 斉藤 利道	法政大学工学部修士課程 法政大学工学部助教授	カオス同期と実装という新しいテーマをバランスよく研究し、IEEE CASIに採択された、国際的に評価される研究である。

平成07年 第11回 入賞 論文番号:009

論文	著者	所属	評価
拡張ノッチフーリエ変換による探譜のための音高抽出  計測自動制御学会論文集、第31巻、第12号掲載予定	門籐 博 田所 嘉昭	豊橋科学技術大学修士課程 豊橋科学技術大学教授	既知周波数のフーリエ係数を求める方式であるノッチフーリエ変換を、未知周波数にも応用可能とした拡張ノッチフーリエ変換を用い、ヒアノ音のように多くの高周波を含む音に対しても、精度の高い探譜が可能なることを示した、有用な研究である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成07年 第11回 入賞

論文	著者	所属	評価
マルチエージェントシステムの合意形成方式  情報処理学会論文誌 Vol.36, No.6, 1995.6	柳沢 洋 村上 国男	神奈川大学理学研究科修士課程 神奈川大学理学部教授	組織活動のためのエージェントモデルを明確な表現方法を用いて提示し、定量的な評価を行い、有効性を示した研究である。

平成07年 第11回 入賞 論文番号:015

論文	著者	所属	評価
不完全知識を扱う高水準論理型データベースの問い合わせのための関係代数表現  情報処理学会論文誌、第36巻第6号、平成7年6月	大原 剛三 馬場口 登 北橋 忠宏	大阪大学博士課程 大阪大学助教授 同 教授	高水準論理型データベースを提案し、関係データベースの基本演算である関係代数に新しい表現方法を導入し、その評価について検討したすぐれた研究である。

平成07年 第11回 入賞 論文番号:017

論文	著者	所属	評価
ネットワークにおける身振り動作を用いた気持ちの伝達  情報処理学会論文誌、第36巻第8号、平成7年8月	井上 智雄 岡田 謙一 松下 温	慶應義塾大学博士課程 慶應義塾大学助教授 同 教授	ネットワークのマルチメディア化を背景に、従来あまり取り扱われていない身振り動作による感情表現の伝送を試みたもであり、新規性があり、研究手法、論旨の展開、記述法のすぐれた論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成07年 第11回 入賞 論文番号:018

論文	著者	所属	評価
巡回符号の構造を利用した最小重み分布符号語数の計算法について  電子情報通信学会論文誌 Vol..J79-A, No.1, 1996-1 掲載予定	毛利 公美 森井 昌克	香川短期大学経営情報科助手 徳島大学工学部教授	巡回符号の最小距離及びそれを有する符号語数を求める効果的な方法を提案したものであり、巡回符号の数学的性質の解明に寄与するとともに、符号を利用する上で重要となる最小重み符号語数を従来より容易に導出する方法を与えた、着眼点の良い研究である。

平成07年 第11回 入賞 論文番号:014

論文	著者	所属	評価
Selective Total-Ordering Group Communication on Signal High-speed Channel  論文	立川 敬行 滝沢 誠	東京電機大学修士課程 東京電機大学教授	高速チャネルでグループ内の複数のプロセスにメッセージを送信するグループ通信プロトコルを提案しており、高速ネットワークを利用したテレコンファレンス、協調作業などのグループウェアに適用可能であり、有効性の高い研究である。

平成07年 第11回 佳作 論文番号:003

論文	著者	所属	評価
Fuzzy Reasoning Method For Smooth Interpolation  1995 International Conference on Artificial Neural Networks and Expert Systems, 1995.11	中村 真 内野 英治 山川 烈	九州工業大学博士課程 同 九州工業大学教授	人間の推論課程を導入したファジィ推論法を提案し、シミュレーションと実験により有効性を確認した、理論的にも応用面からも、効果が期待できる研究である。



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成08年 第12回 入賞 論文番号:003

論文	著者	所属	評価
An Integration-Oriented Approach for Designing Communication Protocols from Component-Based Service Specifications  Proceedings INFOCOM '96 Fifteenth Annual Joint Conference of the IEEE Computer and Communications Societies, pp. 1157-1164, March 1996	中村 匡秀 角田 良明 菊野 亨	阪大基盤工学部情報科学科 博士後期 大阪大学基盤工学研究科助 教授 同 教授	大規模プロトコル設計に関するもので、部品化した機能を合成するプロトコル仕様の作成手法を提案したもので、重要な研究テーマにアタックした、すぐれた論文である。

平成08年 第12回 入賞 論文番号:002

論文	著者	所属	評価
跳躍アルゴリズムによる誤差逆伝搬学習則の停滞回避  電子情報通信学会論文誌 Vol. J79-D-II No.2, pp. 239-247, February 1996	山田 浩太郎 N.ヘッチャラニン 田口 亮 飯島 伸一 曾禰 元隆	石川島播磨重工業(株)  武蔵工業大学大学院博士課程 武蔵工業大工学部電気電子工学科助教授 同 講師 同 教授	ニューラルネットワークの学習アルゴリズムに関するもので、ローカルミニマム回避により高速化を達成したもので、オリジナリティが高く、今後の実用化への貢献も期待できる、すぐれた論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成09年 第13回 入賞 論文番号:102

論文	著者	所属	評価
メル一般化ケプストラム分析に基づくCELP音声符号化	小石田 和人 徳田 恵一 小林 隆夫 今井 聖	東京工業大学大学院博士課程 名古屋工業大学 東京工業大学 千葉工業大学	音声高効率符号化に人間の聴覚特性を効率的に表現するメル一般化ケプストラム分析を導出し、その有効性を実証した優れた論文である。

平成09年 第13回 入賞 論文番号:067

論文	著者	所属	評価
両手操作を用いた仮想物体モデラVLEGO	清川 清 竹村 治雄 岩佐 英彦 片山 喜章 横矢 直和	奈良先端科学技術大学院大学 博士後期課程 同 助教授 同 助手 同 教授	人工現実感技術における問題点の一つである仮想物体の操作性の向上を目的とし、ソフトウェアによる操作補助手法を導出した仮想物体モデラの開発を行った優れた論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成09年 第13回 入賞 論文番号:032

論文	著者	所属	評価
Theoretical Analysis of M-ary/SS Communication Systems Using Racing Counters and a Hadamard Martix  IEEE Journal	大内 浩司 羽瀨 裕真 ハセカワ 勉 キ	茨城大学大学院博士後期課程 茨城大学助手	スペクトラム拡散通信における新しい受信同期方式を提案したもので、通信技術の発展に貢献した優れた論文である。

平成09年 第13回 入賞 論文番号:042

論文	著者	所属	評価
Timed Reachability Analysis Method for EFSM-based Communication Protocols and Its Experimental Evaluation  Proc.1996 International Conference on Network Protocols	長野 伸一 Hatakeyama 角田 良明 菊野 亨	大阪大学大学院博士課程 同 同 助教授 同 教授	耐故障性と実時間性を共に備えたリスポンプロトコルの検証手法を提案した、新規性、有効性の高い優れた論文である。

平成09年 第13回 入賞 論文番号:105

論文	著者	所属	評価
Synthesis of Protocol Entities' Specifications from Service Specifications in a Petri Net Model with Registers  Proc.of 15th International Conference on Distributed Computing Systems	山口 弘純 Okano Higashino 谷口 健一	大阪大学大学院博士後期課程 同 同 同 教授	分散システムのサービス仕様からプロトコル仕様を自動生成する手法を提案した、新規性が高く、難しい問題に対し有用な結果を導出した優れた論文である。



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

### 平成09年 第13回 入賞

論文	著者	所属	評価
M-Ary Orthogonal Keying under Carrier Frequency Offset  電子情報通信学会誌(英文誌)IEICE Vol.E79-A, No.9	西永 望 岩垂 好裕	名古屋大学大学院 同 教授	M元直交符号スペクトル拡散通信で問題となるキャリア周波数オフセットによる劣化を改善する新しい直交拡散符号の提案を行った優れた論文である。

### 平成09年 第13回 佳作

論文	著者	所属	評価
ステレオ表示における奥行き知覚ひずみとその防止方法	石樽 康雄 大塚 作一 金次 保明 吉田 辰夫 臼井 支朗	豊橋技術科学大学大学院 博士課程 ATR人間情報通信研究所 同 豊橋技術科学大学 同	2眼ステレオ画像の奥行き知覚歪みについて知覚実験を行い、画像歪みの原因を心理現象としてとらえ、その有効な解決法を提案した優れた論文である。

### 平成09年 第13回 佳作 論文番号:031

論文	著者	所属	評価
雑音と残響のある環境下でのHMM合成によるハンズフリー音声認識法	滝口 哲也 中村 哲 鹿野 清宏	奈良先端科学技術大学院 同 同 教授	音声認識において隠れマルコフ合成法を提案し、雑音や残響のある場合についても認識を可能とする手法を開発した優れた論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成10年 第14回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>Numerical Optimization of Slot Parameters for a Concentric Array Radial Line Slot Antenna</p> <p>IEE Proceedings Microwave, Antennas and Propagation, vol.145, no.2, pp.141-145, April 1998.</p>	秋山 章	東工大学院理工学研究科修士2年	<p>整合スロット付き同心円素子配列ラジアルラインスロットアンテナのスロットの数値的設計法の提案を行ったもので、試作アンテナで高効率を実証した有効性が高い優れた論文である。</p>

平成10年 第14回 入賞 論文番号:069

論文	著者	所属	評価
<p>Block Coding Scheme Based on Complementary Sequences for Multicarrier Signals</p> <p>IEICE Trans Fundamentals, Vol.E80-A, No.11, November, 1997, pp.2136-2143</p>	落合 秀樹	東大大学院工学系研究科修士1年	<p>無線LANにおけるマルチキャリア変調方式で問題となるピーク電力の変動を抑制する独創的な符号化方式を提案したもので、新規性が高い優れた論文である。</p>

平成10年 第14回 入賞 論文番号:136

論文	著者	所属	評価
<p>Group Protocol for Distributed Replicated Objects</p> <p>Proceedings of the 1998 International Conference on Parallel Processing</p>	榎戸 智也	東電大理工学部経営工学科修士課程	<p>グループ通信において意味あるメッセージに着目して順序付けを行うことによりシステム効率を向上させるプロトコルを提案したもので、有効性が高い優れた論文である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成10年 第14回 入賞 論文番号:078

論文	著者	所属	評価
<p>A Low-Power and High-Speed 0.25 <math>\mu</math>m GaAs DFF</p> <p>Proceedings of the European Solid-State Circuits Conference(ESSCIR'97),1997</p>	廣部 厚紀	中央大学院理工学研究科修士課程	GHz帯無線通信に必要な低消費電力GaAs遅延フリップフロップの開発であり、新回路形式の提案から、設計、試作、評価まで行った優れた研究である。

平成10年 第14回 入賞 論文番号:090

論文	著者	所属	評価
<p>EOGを用いた視線入力インタフェースの開発</p> <p>情報処理学会 和文論文誌論文</p>	久野 悦章	名古屋大学院工学博士前期2年	重度障害者のコミュニケーション支援として、眼球の動きを利用する視線インタフェースの研究で、社会的意義や有効性が高い優れた論文である。

平成10年 第14回 入賞 論文番号:030

論文	著者	所属	評価
<p>A Vehicular Driving Assistant System Using Spread Spectrum Techniques</p> <p>電子情報通信学会英文誌</p>	Ari Widodo	埼玉大学院理工学研究科博士1年	スペクトル拡散通信を用いた車間通信システムを提案し、交通流シミュレータを用いた安全性の検討を行い有効性を示した優れた論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成10年 第14回 入賞 論文番号:055

論文	著者	所属	評価
Application of soft-in/soft-out viterbi algorithm to turbo trellis-coded modulation  電子情報通信学会英文誌	菱輪 正	岡技術科学大学工学研究科修士2年	ターボ符号を多値伝送系であるトレリス符号化変調に拡張した時の復号法の研究であり、情報理論の限界に近い誤り訂正能力を達成した優れた論文である。

平成10年 第14回 入賞 論文番号:059

論文	著者	所属	評価
Performance Analysis of Optical Frequency-Domain Encoding CDMA Enhancement of Frequency Division Multiplexing  電子情報通信学会英文誌	鎌倉 功弘	慶應大学院理工学研究科修士1年	光CDMAで問題となる多元接続干渉に対し、周波数分割多重技術による直交性向上により誤り率を改善したもので、新規性が高い優れた論文である。

平成10年 第14回 入賞 論文番号:047

論文	著者	所属	評価
An Information Announcement System Based on WWW for Mobile Computers  電子情報通信学会英文論文誌vol.E81-A, no.7(1998)	田頭 茂明	奈良先端科技大情報科学博士後期1年	移動計算機が、クライアントとしてだけでなくサーバとしても機能する新しいシステムの提案で、実験システムを構築して有効性を示している。新規性、実用性の高い優れた論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成10年 第14回 入賞 論文番号:061

論文	著者	所属	評価
<p>顔の再認における視点依存の左右非対称性 - virtual viewの観点から-</p> <p>電子情報通信学会論文誌 A, Vol. J80-A No. 8, pp. 1273-1278, 1997年8月号</p>	<p>蒲池 みゆき</p>	<p>九州大学院文学研究科修士2年</p>	<p>人間の顔の認識に関する視点依存性を心理学的実験により分析し、顔認識過程には左右非対象性があることを示したもので、今後の発展が期待される優れた内容である。</p>

平成10年 第14回 佳作

論文	著者	所属	評価
<p>無音発生による中国語情報伝送のための舌運動計測システムに関する研究</p>	<p>劉 忻</p>	<p>東農工大学院工学研究科博士前期1年</p>	<p>無性通信の実現を目指して、口唇形状や舌位置の計測による音声認識システムに関する研究で、まだ初歩的な実験段階ではあるが、新規性があり今後が期待できる優れた研究である。</p>

平成10年 第14回 佳作 論文番号:036

論文	著者	所属	評価
<p>Performance Comparison of M-ary/SSMA Systems and DS/SSMA Systems in the Presence of Frequency Selective Fading and Partial-band Interferences</p> <p>IEICE Trans. Fundamentals, Vol. E81-A, No. 11, 1998年11月掲載予定</p>	<p>荒井 剛</p>	<p>茨城大学院理工学研究科博士前期</p>	<p>白色ガウス雑音、周波数選択性フェージング、狭帯域干渉波が存在する環境においてM-aryスペクトル拡散通信方式と直接拡散方式の性能比較を行った優れた論文である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成10年 第14回 佳作

論文	著者	所属	評価
A New Linear Prediction Filter Based Adaptive Algorithm For IIR ADF Using Allpass and Minimum Phase System  電子情報通信学会 英文論文誌論文	James Okello	鳥取大学院工学研究科博士前期2年	IIR型適応デジタルフィルタの問題点を解決するアルゴリズムを提案した新しい方向性を示した優れた論文である。

平成10年 第14回 佳作

論文	著者	所属	評価
円予測を併用した $\alpha$ - $\beta$ トラッキングフィルタ  電子情報通信学会誌B-II, Vol. J80 EB-II No. 4 1997年6月号, pp342-350	川瀬 徹也	慶應大学理工学部4年	旋回時の飛行軌跡が円弧で予測出来ることに着目して高精度のトラッキングフィルタを提案し、シミュレーションにより有効性を示した優れた論文である。

平成11年 第15回 入賞 論文番号:122

論文	著者	所属	評価
手指動からの特徴抽出によるリアルタイム個人認証	長田 礼子	東京大学大学院工学系研究科	じゃんけんのような手や指の動きをカメラに写し、その動作特徴を利用した個人認証手法を提案したもので、発想の面白さに加えて、実際にシステムを構築して高い認識率が得られた点が評価された。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成11年 第15回 入賞 論文番号:038

論文	著者	所属	評価
<p>Comparing the MOV and FR reductions in elliptic curve cryptography</p> <p>Lecture Note in Computer Science 1592 (Eurocrypto 99)</p>	原澤 隆一	大阪大学大学院理学研究科	楕円曲線暗号における離散対数問題について論じ、従来方式の改良とその具体化を行っているもので、内容が良く詰められた論文である。

平成11年 第15回 入賞 論文番号:064

論文	著者	所属	評価
<p>A Distributed Approach to Computer Virus Detection and Neutralization Autonomous and Heterogeneous Agents</p> <p>Proceedings of the 4th International Symposium on Autonomous Decentralized Systems, Mar. 1999</p>	岡本 剛	奈良先端技術大学大学院 情報科学研究科	生物の免疫系をモデルとして、異種分散型エージェントによるウイルス検知・除去システムを提案したもので、内容の具体性と有効性が評価された。



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成11年 第15回 入賞 論文番号:005

論文	著者	所属	評価
<p>普遍同期方式を利用するSS双方向微弱電波通信の空きTVチャンネル帯域への適用</p> <p>電子情報通信学会論文誌</p>	三科 正樹	矢崎部品株式会社研究員(豊田工業大学)	スペクトラム拡散方式を用いて微弱電波規格に適合させた無線モデムを開発したもので、シミュレーションだけでなく、実際にモノづくりに取り組んだ点が評価された。

平成11年 第15回 入賞 論文番号:019

論文	著者	所属	評価
<p>2種類の優先権を考慮したパッチャ網によるノックアウトハケットスイッチ</p> <p>電子情報通信学会論文誌 □ Vol.J82-B, No.2, 2月</p>	西野 嘉之	慶應義塾大学院理工学研究科	2種類のハケットをパッチャ網により並び替えることで、優先順位に従った棄却率が得られるATMスイッチを提案したもので、さらに多くの優先クラスが扱えるところまで研究を進めている優れた論文である。

平成11年 第15回 入賞 論文番号:035

論文	著者	所属	評価
<p>可変サンプリングによる未知周波数の適応推定とその応用</p> <p>電子情報通信学会論文誌A Vol.J82-A, No.8, pp.333-340</p>	野口 健太郎	豊橋技術大学大学院 工学研究科博士後期課程1年	時間領域制御信号処理により、少ない演算量と高い検出制度を両立させた適応的な周波数推定法を提案したもので、新規性や有効性の高い論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成11年 第15回 入賞 論文番号:003

論文	著者	所属	評価
<p>複数マイク自由配置による 複数話者位置推定</p> <p>電子情報通信学会論文誌A Vol.J82-A, No.2 1999年2月</p>	小林 和則	長岡技術科学大学大学院電 気・電子システム工学専攻2年	仮説・検証手法を用いた音源位置の推定手法を提案したもので、逆 転の発生の面白さに加えて、これを簡単なハード構成で実現するな ど、完成度の高い論文である。

平成11年 第15回 佳作

論文	著者	所属	評価
<p>有限状態モデルに基づく モバイルシステムの仕様 化</p> <p>情報処理学会マルチメディ ア通信と分散処理研究会 1999年7月16日</p>	板橋 吾一	仙台電波工業高等専門学校 専攻科	モバイルシステムの設計において、移動局や基地局などのエンティ ティを有限状態機械として形式的に記述するシステム評価手法を提 案したもので、高等専門学校専攻科2年生による力作として、今後が 期待される研究である。



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成12年 第16回 入賞 論文番号:024

論文	著者	所属	評価
<p>A Linear-Time Algorithm to find Independent Spanning Trees in Maximal Planar Graphs</p> <p>26th International Workshop on Graph-Theoretic Concepts in Computer Science(WG2000)</p>	<p>長井 さやか 中野 眞一</p>	<p>群馬大学大学院 工学研究科 博士前期課程1年</p>	<p>根が指定されたグラフにおいてk本の独立全域木を求めるアルゴリズムに関する基礎理論的研究であり、新規性、完成度の高い優れた論文である。</p>

平成12年 第16回 入賞 論文番号:031

論文	著者	所属	評価
<p>Vector-Embedded Karhunen-Loeve Transform and Its Application in Orientation Adaptive Coding of Images</p> <p>IEICE Trans.Fundamentals,Vol.E-83-A, No.6, June 2000</p>	<p>田中 聡久 山下 幸彦</p>	<p>東京工業大学大学院 理工学 研究科修士課程2年</p>	<p>エッジや線などの方向性に適応した高能率画像符号化法の提案。新規性が高く、符号化効率の向上とともにエッジ部の雑音抑制を可能にした理論的解明の深い優れた論文である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成12年 第16回 入賞 論文番号:060

論文	著者	所属	評価
Design and implementation of intracell reverse link using approximately synchronized CDMA  Proceeding of the 11th IEEE □ International Symosium on Personal, Indoor and Mobile Radio Communication(PIMRC2000), London, UK, 2000.9	亀田 卓 高橋 康一 鎌田 武遠 車 載祥 中瀬 博之 益 一哉 坪内 和夫	東北大学大学院工学研究科 電子工学専攻 博士後期課程 1年 東北大学大学院工学研究科 電子工学専攻 博士前期課程 1年	近似同期制御を用いたSS-CDMA構内無線システムの提案であり、新規性、有効性の高い研究である。

平成12年 第16回 入賞 論文番号:110

論文	著者	所属	評価
Scheduling Meeting using Distributed Value d Constraint Satisfaction Algorithm  Proceedings of the 14th European Conference on Artificial Intelligence	鶴田 拓生 新谷 虎松	名古屋工業大学大学院 工学 研究科博士前期課程1年	参加者の都合を考慮した自動会議スケジューリングシステムのモデル化しており実用的アルゴリズムを理論的に導いた国際的にも評価された優れた内容である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成12年 第16回 入賞 論文番号:082

論文	著者	所属	評価
<p>純粋状態信号に対する量子最適決定作用素の混合状態信号に対する適用可能性</p> <p>電子情報通信学会論文誌A(採録決定)</p>	<p>藤原 祐二 臼田 毅 内匠 逸 畑 雅恭</p>	<p>名古屋工業大学大学院 工学研究科博士前期課程1年</p>	<p>量子通信における最適受信課程の導出と実現化に関する基礎的研究で、我が国が欧米に比べて遅れていると言われる分野での意欲的な取り組みとして応用研究への刺激を含め、今後が期待される研究である。</p>

平成12年 第16回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>仮想版画—自動切削による仮想版木作成支援と多版色刷りの検討</p> <p>電子情報通信学会論文誌D-II(採録決定)</p>	<p>大河内 俊雄 水野 慎士 岡田 稔 鳥脇 純一郎</p>	<p>名古屋大 名古屋大学大学院 工学研究科 博士前期課程2年</p>	<p>仮想版画における版木彫りや版画刷りシステムの手法の提案で、CGでは試みられていなかった版画制作を可能にした新規性や完成度の高い優れた研究である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成12年 第16回 入賞 論文番号:016

論文	著者	所属	評価
マルチキャストトラフィックに対応可能なクロスバーATMスイッチ  電子情報通信学会論文誌 Vol.J83-B, No.4, pp.479-489, 2000年4月	佐久田 誠 坂本 憲司	慶應義塾大学大学院 理工学 研究科修士課程2年 慶應義塾大学大学院 理工学 研究科修士課程1年	ATMスイッチ回路網の研究であり、今後ますます重要になるマルチキャストの分野に大きく寄与することが期待される有効性の高い研究である。

平成12年 第16回 入賞 論文番号:090

論文	著者	所属	評価
マイクロホンアレーを用いたCSP法に基づく複数音源位置推定  電子情報通信学会論文誌 Vol.J83-D-II, No.8, 2000.8	西浦 敬信 山田 武志 中村 哲 鹿野 清宏	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科修士2年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士3 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授	マイクロホンアレーを用いた複数音源位置測定法の提案であり、有効性の高い優れた研究である。

平成12年 第16回 佳作 論文番号:052

論文	著者	所属	評価
ラプラシアンピラミッド階層表現に基づくデジタル画像の一拡大法  電子情報通信学会論文誌 vol.J82-A, No.11, 1999	高橋 靖正 田口 亮	武蔵工業大学工学部電気電子工学科	デジタル画像拡大手法における画質改良法の検討で、学部学生による力作として今後が期待される研究である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成13年 第17回 入賞 論文番号:124

論文	著者	所属	評価
<p>1)Adaptive estimation of transfer functions for sound localization using stereo earphone-microphone combination 2)Out-of-head sound localization using adaptive inverse filter</p> <p>1)投稿中(電子情報通信学会論文誌) 2)The 26th IEEE International Conference on Acoustics, Speech and Singal Processing(ICASSP2001), Salt Lake City, Utah, May 2001.</p>	<p>堀内 俊治 穂刈 治英 島田 正治 稲田 孝</p>	<p>長岡技術科学大学大学院 工学研究科 修士課程2年</p>	<p>ヘッドホンやイヤホン受聴時に、音源の位置を知覚させる音像定位技術の提案であり、新規性は高く、実用性の高い研究である。</p>

平成13年 第17回 入賞 論文番号:031

論文	著者	所属	評価
<p>Orthogonal Variable-Spreading-Factor-Code Assignment in DS-CDMA Multi-Rate Communications</p> <p>1. The Third International Symposium on Wireless Personal Multimedia Communications(WPMC'00), Bangkok, Thailand, pp.331-335, Nov.12-15, 2000. 2) 2001 Fall Vehicular Technology Conference(VTC Fall 2001), Atlantic city, New Jersey, USA, Oct.7-11, 2001.</p>	<p>A.ルチハ<sup>ン</sup> 小野里 好邦 河西 健一 山本 潮 松下 正彦</p>	<p>群馬大学大学院 工学研究科 博士前期課程2年</p>	<p>マルチメディア移動通信を対象にした異種速度の符号割当を可能にする直交可変拡散符号の研究であり、実用性もあり、優れた論文である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成13年 第17回 入賞 論文番号:121

論文	著者	所属	評価
Incremental Parsing for Interactive Natural Language Interface  Proceedings of the 2001 IEEE Systems, Man, and Cybernetics Conference (2001年10月7日)	森 大輔 松原 茂樹 稲垣 康善	名古屋大学大学院 工学研究科 博士前期課程2年	実時間音声対話や同時通訳などにおいて、文章が途中で修正されたときに以前の解析結果を最大限に活用して高速に構文解析を行うアルゴリズムの提案であり、新規性があり、有効性も高い。

平成13年 第17回 入賞 論文番号:085

論文	著者	所属	評価
Improvement of Adaptive Co-Channel Interference Canceling with Turbo Code  WPMC'00, Bangkok, Thailand (Nov.12-15, 2000)	久田 寛子 堀越 淳	群馬大学大学院 工学研究科 博士前期課程2年	ターボ符号を用いた最尤推定法により、移動通信における同一チャネル間干渉を軽減する方法の提案であり、性能を大幅に改善し有効性が高い。

平成13年 第17回 入賞 論文番号:059

論文	著者	所属	評価
画像処理を用いた携帯型視覚障害者歩行支援システムの検討  映像情報メディア学会誌 Vol.55, No.11, 2001.11	K.サダタ 田所 嘉昭	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科修士2年	視覚障害者に対する携帯型歩行支援システムの提案であり、従来方式に画像処理機能を追加して歩行方位の確実検出、目印確認を行えるようにし、有効性が高い研究である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成13年 第17回 入賞 論文番号:061

論文	著者	所属	評価
SCOOP: A Record Extractor without Knowledge on Input  国際会議 Discovery Science 2001 (2001年11月25日～28日)	山田 泰寛 池田 大輔 廣川 佐千男	九州大学大学院 システム情報科学府 修士1年	www上の半構造化文書からレコードを抽出し、それらを一つの表として出力するシステムの開発であり、新規性や有効性が高い。

平成13年 第17回 入賞 論文番号:063

論文	著者	所属	評価
プライバシーを重視したアクセス制御機構の提案  情報処理学会論文誌 第42巻 8号 平成13年8月	梅澤 健太郎 齋藤 孝道 奥乃 博	東京理科大学大学院 理工学研究科修士課程1年	権限証明書発行者と証明書検証者を分離して、自己情報制御権を保證する方法の提案であり、新規性、有効性が高い。

平成13年 第17回 入賞 論文番号:060

論文	著者	所属	評価
事例に基づくHTML文書からXML文書への半自動変換 -シリーズ型HTML文書における類似性の利用-  人工知能学会誌16巻5号B (2001年)	梅原 雅之 岩沼 宏治 永井 宏和	山梨大学大学院 工学研究科 博士前期課程1年	インターネットのHTML文書から機械処理に適したXML文書への変換手法の提案であり、新規性があり、実用性が高い研究である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成13年 第17回 入賞 論文番号:090

論文	著者	所属	評価
<p>複数の照明条件の組合せによる物体の表面反射特性の密な推定</p> <p>電子情報通信学会論文誌 Vol.J84-D-II No.8 20001/8</p>	<p>町田 貴史</p> <p>竹村 治雄</p> <p>横矢 直和</p>	<p>奈良先端科学技術大学院 情報科学研究科 博士 後期課程1年</p>	<p>実写画像を幾何形状に張りつけるCG表現法に関し、物体表面上の反射特性を推定する手法の提案であり、新規性があり、完成度の高い論文である。</p>

平成13年 第17回 佳作 論文番号:106

論文	著者	所属	評価
<p>A Dynamic Programming Model for Determining Bidding Strategies in Sequential Auctions : Quasi-linear Utility and Budget Constraints</p> <p>The 17th International Conference on Uncertainty in Artificial Intelligence(UAI-2001), 2001年8月</p>	<p>服部 宏充</p> <p>横尾 真</p> <p>櫻井 祐子</p> <p>新谷 虎松</p>	<p>名古屋工業大学大学院 工学 研究科 博士前期課程2年</p>	<p>インターネット上の逐次型オークションにおいて、予算制約条件のもとで最適戦略を高速に決定する手法の提案であり、草分け的研究として評価できる。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成13年 第17回 佳作 論文番号:056

論文	著者	所属	評価
適応型ルーティングにおける output selection function に関する研究  情報処理学会論文誌42号4巻 pp.704-713, 2001年4月	鯉淵 道紘 舟橋 啓 上樂 明也 天野 英晴	慶應義塾大学大学院 理工学 研究科 修士課程1年	大規模並列計算機システムの結合網における出力チャンネル選択に負荷分散を図ったルーティングアルゴリズムの提案であり、新規性が高い研究である。

平成13年 第17回 佳作 論文番号:062

論文	著者	所属	評価
花と葉による野草の自動認識  電子情報通信学会論文誌 Vol.J84-D-11, No.7, 2001	齊藤 剛史 金子 豊久	豊橋技術科学大学大学院 工学 研究科 修士課程2年	花と葉から野草を自動認識するシステムを構築したもので、高い認識率が得られており有効性が高い研究である。

平成13年 第17回 佳作 論文番号:064

論文	著者	所属	評価
ブロッチによって劣化した動画像信号に対する一復元手法  電子情報通信学会論文誌A Vol. J84-A No.3 pp.398-408 2001年3月号	宮田 晃次 田口 亮	武蔵工業大学大学院 工学研 究科 修士課程1年	古い映像のブロッチ(しみ)を除去するための手法の提案であり、新規性があり、実用的な研究である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成14年 第18回 入賞 論文番号:43

論文	著者	所属	評価
<p>Algorithms for Multicolorings of Partial k-Trees</p> <p>8th Annual International Conference, ICDCOON 2002, Proceedings pp.430-439 電子情報通信学会英文論文誌IEA特集号)</p>	<p>伊藤 健洋 西関 隆夫 周 暁</p>	<p>東北大学大学院 情報科学研究科 博士前期1年</p>	<p>従来の点彩色を一般化した多重彩色問題を部門k木に対して多項式時間で解くアルゴリズムの研究であり、動的計画法の高速化など独自性が見られる論文である。</p>

平成14年 第18回 入賞 論文番号:32

論文	著者	所属	評価
<p>An algorithm for node-disjoint paths in rotator graphs</p> <p>Proceedings of the Third International Conference on Parallel and Distributed Computing, Application and Technologies, pp. 376, 2002.</p>	<p>鈴木 康斗 金子 敬一</p>	<p>東京農工大学大学院 工学研究科 博士前期課程1年</p>	<p>超並列計算機システムを対象にk-連結グラフにおける内素なk本の経路を求めるアルゴリズムの研究であり、一定の水準に達した論文である。論文、国際会議など多くの成果をあげている。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成14年 第18回 入賞 論文番号:51

論文	著者	所属	評価
<p>Performance Analysis of Dynamic Lightpath Configuration for WDM Asymmetric Ring Networks</p> <p>The Second IFIP-TC6 □ Networking Conference, Networking 2002(2002年5月 19日~24日)</p>	<p>橘 拓至 笠原 正治</p>	<p>奈良先端科学技術大学院大 学 情報科学研究科 博士後 期課程1年</p>	<p>Optical Add/ Drop Multiplexer(OADM)において、トラヒック変動に 対処すべく、波長パスを動的に設定/開放する動的波長パス設定 法の提案であり、リング網について、待ち行列理論により性能評価を 行って有効性を示した完成度の高い論文である。</p>

平成14年 第18回 入賞 論文番号:68

論文	著者	所属	評価
<p>MPI-PreDebugger:通信 依存解析に基づくメッ セージ通信並列プログラ ム向けデバッグ支援ツ ール</p> <p>社団法人 情報処理学会 「情報処理学会論文誌:ハイ パフォーマンスコンピュー ティングシステム」 Vol.43 No.SIG6 (HPS5) 平成14年9 月発行</p>	<p>置田 真生 伊野 文彦 藤本 典幸 萩原 兼一</p>	<p>大阪大学大学院 基礎工学研 究科 博士前期課程1年</p>	<p>複数のプロセスを同時に実行する並列プログラムにおいて、通信を 介したプロセス間の依存関係を解析して異常プロセスを自動検索す るデバッグ支援ツールの提案であり、評価実験を行ってデバッグ時 間を大幅に短縮できることを示し、有効性が高い論文である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成14年 第18回 入賞 論文番号:71

論文	著者	所属	評価
周波数軸伸縮を用いた混合正規分布モデルに基づく声質変換法  電子情報通信学会論文誌, Vol. J84-D-II, No. 10, pp. 2181-2189, October 2001.	戸田 智基 陸 金林 猿渡 洋 鹿野 清宏	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 博士前期課程2年	ある話者の音声をもろで他の話者が発声した音声のように変換する音質変換技術に関し、従来の方法を改良し、新しい高性能な音質変換法を提案しており、新規性、有効性が高く評価できる。論文、国際会議など多くの成果を挙げている。

平成14年 第18回 入賞 論文番号:10

論文	著者	所属	評価
擬似八木アンテナアレーの遺伝的アルゴリズムによる設計  電子情報通信学会論文誌, B, 通信 J86-B(2), 209-218, 2003-02-01	糀谷 卓也 辻 陽介 桑原 義彦	静岡大学大学院 理工学研究科 博士前期課程2年	擬似八木アンテナのパラメータ(パラサイト素子の長さやダイポール素子との間隔)を遺伝的アルゴリズムにより最適化する方法の提案であり、新規性が高く、完成度の高い論文である。提案した方法を計算機シミュレーションや試作実験により確認をしており、この点も評価できる。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成15年 第19回 入賞 論文番号:077

論文	著者	所属	評価
<p>[1]An Optical Packet Router Using Electrical Edge Routers As Shared Buffers [2]共通バッファを用いる光パケットルータの順序制御アルゴリズム</p> <p>[1]Proceedings of COIN/ACOFT 2003, July 2003[2]電子情報通信学会論文誌 Vol. J86-B No. 32003年3月</p>	<p>横田 純 高橋 達郎 朝香 卓也 岩本 洋</p>	<p>京都大学大学院 情報学研究科 修士2年</p>	<p>電気ルータのエッジルータを光ルータのバッファに使用するアイデアであり斬新である。方式提案の意図、方式の内容、特性の検討などが分かりやすく書かれており、有効性が高く、論文としての完成度も高い。</p>

平成15年 第19回 入賞 論文番号:012

論文	著者	所属	評価
<p>Adaptive Prediction Iterative Channel Estimation for Combined Antenna Diversity and Coherent Rake Reception of Multipath-Faded DSSS Signals</p> <p>IEICE Transactions on Communications, Vol. E85-B, No. 11 pp. 2405-2415, November 2002.</p>	<p>高岡 辰輔 安達 文幸</p>	<p>東北大学大学院 工学研究科 博士前期1年</p>	<p>第3世代移動通信システムにおいて、常にBER(ビットエラーレート)を最小化できる適応予測繰り返しチャネル推定手法を提案し、丁寧なシミュレーションによりその効果を明らかにした。新規性、有効性が高く、実用化の期待が持てる研究である。</p>

平成15年 第19回 入賞 論文番号:062

論文	著者	所属	評価
<p>Design Criteria for Phase Sequences in Selected Mapping</p> <p>IEICE Transactions on Communications, vol. E86-B, no.9 September 2003.</p>	<p>大久保 尚人 大槻 知明</p>	<p>東京理科大学大学院理工学研究科 修士2年</p>	<p>次世代移動通信方式として注目されるマルチキャリアCDMAにおいて問題となる高いピーク電力対平均電力化(PAPR)を低減する方式として、SLM方式が従来のPTS方式より有効であることを明らかにしており、新規性、有効性にとんだ、完成度の高い論文である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成15年 第19回 入賞 論文番号:075

論文	著者	所属	評価
Blind Source Separation of Acoustic Signals Based on Multistage ICA Combining Frequency-Domain ICA and Time-Domain ICA  IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communication and Computer Sciences, Vol.E86-A, No.4 April 2003	西川 剛樹 猿渡 洋 鹿野 清宏	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科修士2年	ハンズフリー音声認識に必要な独立成分分析(ICA)にもとづくフラインド音源分離手法について、時間領域ICA(TDICA)と周波数領域ICA(FDICA)の利点を組合わせた多段ICAを提案し、実験を通じて従来法を上回る性能が得られることを示している。最先端の研究にもとづく完成度の高い論文である。

平成15年 第19回 入賞 論文番号:066

論文	著者	所属	評価
NTM-Agent:Text Mining Agent for Net Auction  国際会議 <input type="checkbox"/> kitaka Kusumura, Yoshinori Hijikata, Shogo Nishida: "NTM-Agent:Text Mining for Net Auction", The 2003 International Symposium on Applications and the Internet(SAINT2003), pp.356-359, Florida, USA, Feb, 2003	楠村 幸貴 土方 嘉徳 西田 正吾	大阪大学大学院 基礎工学研究科修士2年	Webページを収集しデータマイニングを行うというテーマについて、数多くの文書フォーマットが特定されないWebページに対応可能とするための手法、また必要情報を補完する機能を提案している点に新規性があり、有効性の高い研究である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成15年 第19回 入賞 論文番号:021

論文	著者	所属	評価
音高による音色変化に着目した楽器音の音源同定:F0依存多次元正規分布に基づく識別手法  情報処理学会論文誌, 第44巻, 第10号(2003年10月発行)	北原 鉄朗 後藤 真孝 奥乃 博	京都大学大学院 情報学研究所 修士1年	音高による音色変化をモデル化するF0依存多次元正規分布を提案し、実際の楽器音を用いた様々な同定実験を通じて提案手法の有効性を示している。新規性があり、知的符号化や情報源符号化への応用が期待できる。

平成15年 第19回 入賞 論文番号:046

論文	著者	所属	評価
マルチレート離散フーリエ変換の特性改善  電気学会論文誌C, 2003年12月	山本 浩子 野口 健太郎 田所 嘉昭	豊橋技科大学大学院 工学研究科 修士2年	マルチレート離散フーリエ変換(MR-DFT)を実環境で用いる場合に雑音が低次の係数推定に影響を及ぼすことを示し、その問題を解決するために周波数シフトを行う手法、並列処理を行う手法を提案、しっかりしたシミュレーションを行っている。MR-DFTの問題点を改良する優れた研究である。

平成15年 第19回 入賞 論文番号:045

論文	著者	所属	評価
Proposal of Grouping Adaptive Modulation Method for Burst Mode OFDM Transmission System グルーピング適応変調(GAM)方式を用いたバーストモードOFDM通信システムに関する提案  電子情報通信学会英文論文誌, Vol.E86-B, No.1, 2003年1月	藤 元潤 永長 知孝 森 香津夫 小林 英雄	三重大学大学院工学研究科 博士前期2年	OFDMサブキャリアを複数のグループに分割し、各グループの中の最小のCNR(キャリア対ノイズ比)を有するサブキャリアに基づいて最適な変調方式を割り当てる斬新な方式を提案している。シミュレーションで有効性を証明しており、論文としての完成度も高い。



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成15年 第19回 佳作 論文番号:084

論文	著者	所属	評価
<p>次世代ユビキタス社会におけるRFタグを利用した遠隔建築支援(管理)システムの提案—物体情報からインターネットを経由して行う遠隔建築支援と環境循環型データベースの情報活用—</p> <p>神戸大学工学部建設学科(建築系) 河村研究室 〇〇カレント建築・都市研究会 ニュースレターNo.8 〇〇3年7月7日発行・掲載</p>	長尾 嘉満	早稲田大学大学院 国際情報通信研究科修士2年	専門分野の異なる(建築工学)実務的技術を持った社会人が大学院に入学し、情報通信の視点からRF-IDの応用についてまとめたユニークな論文である。その具体例は、社会のあらゆる分野にRF-IDの応用が可能なことを示唆している。

平成16年 第20回 入賞 論文番号:017

論文	著者	所属	評価
<p>[1]代替財共同購入における買い手の多属性な嗜好に基づいたグループ統合支援機構 [2]A Buyers Integration Support System based on Users' Multi Attribute Utilities for Internet Group Buying</p> <p>[1]電子情報通信学会論文誌D1, Vol.J86, No.10, 2003年10月 [2]Proceedings of International World Wide Web Conference, 2003年5月</p>	松尾 徳朗 伊藤 孝行	北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科博士前期2年	インターネット上で商品を安く購入できるように代替的な商品購入で妥協することにより複数の買い手グループを統合するための多属性効用理論に基づくグループ統合支援アルゴリズムを提案している。本提案は買い手の効用を多属性な嗜好として定義しているために、妥協度に基づき買い手の支払い額を求め、実際の商取引に近いものになり、新規性と有効性に優れている。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成16年 第20回 入賞 論文番号:018

論文	著者	所属	評価
Adaptive Resource Allocation Control With On-line Search for Fair QoS Level  IEEE, Proceedings of 10th Real-Time and Embedded Technology and Applications Symposium2004年5月	原田 史子 潮 俊光 中本 幸一	大阪大学大学院 基礎工学研究科博士前期1年	リアルタイムシステムにおいてリソースがCPUのみの場合にQoSの公平性を達成するリソース配分手法を提案した論文である。QoSの公平性を制御理論を用いて達成するが、その目標値を平均値と置き換えても実現できることを示し、従来手法では環境が動的に変化するものに対応しにくかったが、それを容易にした点を高く評価する。

平成16年 第20回 入賞 論文番号:063

論文	著者	所属	評価
Separation of Harmonic Structures Based on Tied Gaussian Mixture Model and Information Criterion for Concurrent Sounds  Proc. IEEE, International Conference on Acoustics, Speech and Signal Processing (ICASSP2004), pp. IV-297- IV-300, Montreal, Quebec, May 2004.	亀岡 弘和 西本 卓也 嵯峨山 茂樹	東京大学院情報理工学系研究科修士課程2年	二人以上が同時発話する音声や楽曲から各話者の音声や各パートを分離する多重音分離法の新たな手法を提案した論文であり、従来手法の限界を破ることが期待される。

平成16年 第20回 入賞 論文番号:027

論文	著者	所属	評価
繰り返し構造に基づいたWebページの構造化  情報処理学会論文誌, Vol.45, No.9, 2004年9月.	南野 朋之 齋藤 豪 奥村 学	東京工業大学大学院 総合理工学研究科博士1年	WEBページの構造の自動解析を、WEBページに含まれる繰り返し構造に着目して行う方法を提案した論文であり、新規性を高く評価する。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成16年 第20回 入賞 論文番号:074

論文	著者	所属	評価
大規模データセットを可視化するための効率のよい並列ボリュームレンダリング  情報処理学会論文誌:コンピューティングシステム, Vol. 45, (ACS 7), (2004-10),	松井 学 伊野文彦 萩原兼一	大阪大学大学院 情報科学研究科博士前期1年	医師の診察支援などのボリュームデータの内部構造が見えるように、高解像度ボリュームデータを効率よく可視化する並列ボリュームレンダリング手法を提案した論文であり、64台のPCクラスタ実験で、従来手法よりも計算量を約30%削減し、その新規性と有効性を高く評価する。

平成16年 第20回 入賞 論文番号:047

論文	著者	所属	評価
物理光学における擬似透過波の除去と開口面法との混合解法  電気学会論文誌A(基礎・材料・共通部門誌)IEEJ Trans. FM, Vol. 123, No. 12, pp. 1185-1192, 2003年12月	司城 徹 安藤 真	東京工業大学大学院 理工学研究科修士1年	波長に比較して大きな物体による回折散乱のメカニズムを物理光学的手法において明らかにし、新たな解析手法を示した論文であり、その新規性と有効性は高い。

平成16年 第20回 佳作 論文番号:054

論文	著者	所属	評価
Vector Representation of Binary Images Containing Halftone Dots  2004 IEEE International Conference on Multimedia and Expo (ICME 2004), TP2-1, Jun. 2004.	河村 圭 渡辺 裕	早稲田大学大学院 国際情報通信研究科修士1年	解像度変換を行っても大幅な品質劣化を起さない2値画像の効率的表現手法を示している。その問題設定と、マンガ画像に特化した着眼点の新規性を評価する。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成16年 第20回 佳作 論文番号:086

論文	著者	所属	評価
<p>A Dual Access Mode MAC Protocol for Ad Hoc Networks Using Smart Antennas</p> <p>Proceedings of the IEEE International Conference on Communications, 20-24 June 2004.</p>	<p>高田 昌忠 長島 勝城 渡辺 尚</p>	<p>静岡大学大学院 情報学研究所 修士1年</p>	<p>指向性アンテナを利用した無線アドホックネットワークのMACプロトコルの提案についての論文である。無線アドホックネットワークのMACプロトコルが無指向性アンテナを利用したものを、指向性アンテナに拡張して適用すると、空間利用効率上がるが、プロトコルのオーバーヘッドが増えて全体のスループットが下がる問題に対して、無指向性と指向性のアンテナを組み合わせさせた方法を考案して、スループットの向上をした点を評価する。</p>

平成16年 第20回 佳作 論文番号:001

論文	著者	所属	評価
<p>創造的活動における文献調査のためのドキュメントスキミング支援環境</p> <p>人工知能学会論文誌, Vol.19, No.2, pp.113-125, 2004年3月掲載</p>	<p>羽山 徹彩 金井 貴 國藤 進</p>	<p>北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科博士前期2年</p>	<p>文書の重要な部分を拾い読むスキミングを支援するシステムの構築をしている。内容による区分けと重要文抽出の技術を開発し実装し、特に人間のスキミング結果を利用する点は評価できる。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成16年 第20回 佳作 論文番号:093

論文	著者	所属	評価
0.1波長以下の超小形メアンダラインアンテナの電気特性  電子情報通信学会 論文誌 B Vol.J87-B No9 2004年9月	滝口 将人 山口 吉英	防衛大学校理工学研究科前期過程電子工学専攻	超小型アンテナの開発についての論文である。波長に比較して寸法の小さなアンテナについてであり、折り返しアンテナを設計し、実際に700MHzにおいて0.1から0.025波長の設計手法を提示した点を評価する。

平成17年 第21回 入賞 論文番号:076

論文	著者	所属	評価
Dynamic Class Assignment for Stream Flows Considering Characteristics of Non-stream Flow Classes  IEICE Trans Commun. Vol.E87-B, No.11 November 2004	安川 健太 馬場 健一 山岡 克式	東京工業大学大学院理工学研究科集積システム専攻博士前期課程2年	一般的にstream型のフローはUDPのもと通信が行なわれ、non-stream型のフローはTCPのもと通信が行なわれるケースが多い。Stream型のフローを送るUDPの制御とnon-stream型のフローを送るTCPの制御は他方に対して負の影響を及ぼすことが知られているが、本論文ではnon-stream型の通信をその特徴によって4つのクラスに分類し、Stream型の通信の動的なクラス割り当てアルゴリズムを提案してその有効性を示しており、新規性が高い。





## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成17年 第21回 入賞 論文番号:030

論文	著者	所属	評価
<p>チャンネル間相関を用いた多チャンネル信号の可逆圧縮符号化</p> <p>情報処理学会論文誌, 第46巻, 第5号, 平成17年5月発行</p>	<p>鎌本 優</p> <p>守谷 健弘</p> <p>西本 卓也</p> <p>嵯峨山 茂樹</p>	<p>東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻修士課程2年</p>	<p>多チャンネル時系列信号に対し、チャンネルごとの時間領域線形予測と、その残差信号のチャンネル間相関を利用する可逆圧縮符号化法を提案したものである。オーディオ信号のロスレス符号化方式として性能が高く、MPEG国際標準化にも採用された優れた方式の提案であつて、オーディオ信号のみならず、より広い時系列信号の符号化への発展が期待できる。</p>

平成17年 第21回 入賞 論文番号:005

論文	著者	所属	評価
<p>共通バッファを持つ光パケットスイッチング網における効率的なディフレーション制御法</p> <p>電子情報通信学会論文誌 Vol.J88-B, No.10, Oct. 2005.</p>	<p>川那辺 一毅</p> <p>高橋 達郎</p>	<p>京都大学大学院情報学研究科修士課程1年</p>	<p>光パケットスイッチングにおける衝突回避を行うためのディフレーションルーチングでは、衝突するパケットを使用されていないリンクに送出することで衝突を回避するため、ネットワーク全体の負荷を増加させ、パケットの順序逆転を生じる問題点があるが、本論文ではそれらの問題点を抑える手法を提案し、特性評価を行うことにより有効性を示しており、新規性の高いものである。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成17年 第21回 佳作

論文	著者	所属	評価
<p>A.「On Rake Reception of Ultra Wideband Signals over Multipath Channels from Energy Capture Perspective」B.「Evaluation of Selective Rake Receiver in Direct Sequence Ultra Wideband Communications」</p> <p>A.IEICE Trans Fundamentals.Vol.E88-A, No.9 Sep.2005/B.IEICE Trans Fundamentals.Vol.E87-A, No.7 Jul.2004</p>	<p>Mohammad Azizur Rahman 佐々木 重信 周杰 村松 正吾 菊池 久和</p>	<p>新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程2年</p>	<p>UWBチャネルモデルでのRake受信におけるパルス幅と変調方式による受信機特性については、まだ、十分解明されてなく、様々なRake受信機の優劣が分かっていなかった。本論文は、実測をもとに構築されたUWB通信路モデルを用いて、パルス幅や合成パルス数による特性を明確化してRake受信機の特長やDS-UWB伝送のメリットを明らかにしており、新規性が高いものである。</p>

平成17年 第21回 佳作 論文番号:033

論文	著者	所属	評価
<p>Maestro2: High Speed Network Technology for High Performance Computing</p> <p>IEEE International Conference on Communications [ICC2004]</p>	<p>青木 圭一 山際 伸一 Kevin Ferreira Luis Miguel Campos 小野 雅晃 和田 耕一 Leonel Sousa</p>	<p>筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻2年</p>	<p>クラスタコンピュータを用いた高速計算のためのネットワークアーキテクチャを提案したもので、要素技術として、バースト転送の連続的継続方式やメッセージ転送順序の変更方式、更に通信ソフトウェアの遅延要因を除くソフトウェア技術などを提案している。本論文では、これらの技術を実装し、遅延とスループットの観点から既存手法と比較評価してその優位性を示しており、新規性のある有効な手法を与えた。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成17年 第21回 佳作 論文番号:073

論文	著者	所属	評価
<p>オーバーレイネットワーク上で遅延最小木を動的に構築する分散型プロトコルMODEの提案と評価</p> <p>情報処理学会論文誌, Vol.46, No.2, 2005年2月</p>	<p>Thilmee Malinda Baduge 廣森 聡仁  梅津 高朗  山口 弘純  東野 輝夫</p>	<p>大阪大学大学院情報科学研究科博士前期課程2年</p>	<p>インターネット上のビデオ会議等を想定した通信手順において、処理モデルとその近似アルゴリズムを提案し、シミュレータ上でその有効性を確認したものであり、情報通信基礎技術の構築の進展に寄与するものとして評価する。</p>

平成18年 第22回 入賞 論文番号:063

論文	著者	所属	評価
<p>Drum Sound Recognition for Polyphonic Audio Signals by Adaptation and Matching of Spectrogram Templates with Harmonic Structure Suppression</p> <p>IEEE Transactions on Speech and Audio Processing Vol.15, No.1 (Jan. 2007).</p>	<p>吉井 和佳  後藤 真孝  奥乃 博</p>	<p>京都大学大学院 情報学研究科知能情報学専攻修士課程2年 産業技術総合研究所主任研究員 京都大学大学院 情報学研究科 教授</p>	<p>本論文はドラム音スペクトログラムをテンプレートとしたテンプレート適応手法と長波構造抑制手法を考案して、様々な楽器音を含む音楽音響信号中からドラム音やシンバル音を個別に抽出する技術を実現したものである。提案手法は詳細かつ明確に記述されており完成度の高い研究成果と評価できる。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成18年 第22回 入賞 論文番号:053

論文	著者	所属	評価
<p>複数文質問のタイプ同定</p> <p>情報処理学会論文誌 第47巻 第6号 平成18年6月発行</p>	<p>田村 晃裕</p> <p>高村 大也</p> <p>奥村 学</p>	<p>東京工業大学大学院 総合理工学研究科 知能システム科学専攻 修士1年</p>	<p>既存の質問応答システムは入力として1文よりなる質問のみ想定しているが、複数文入力にも対応できるシステム構築を目指し、複数文からなる質問入力から質問タイプを決める最も重要な1文を抽出して質問タイプの同定を行うこととして、質問タイプを同定する際に有力な情報となる名詞を特定するルールを提案し、実験データに対してこれら手法を適用して、特性を改善できることを示した点が高く評価できる。</p>

平成18年 第22回 入賞 論文番号:072

論文	著者	所属	評価
<p>A Rate Adaptive Multicast Protocol for Providing MAC Layer Reliability in WLANs</p> <p>電子情報通信学会(IEICE), 英文論文誌IEICE Transactions on Communications, Vol.E89-B, No.10, October 2006.</p>	<p>Anas Basalama</p> <p>杉本 大樹</p>	<p>早稲田大学大学院 国際情報通信研究科 前期博士課程(修士)</p> <p>早稲田大学大学院 国際情報通信研究科 客員研究員</p>	<p>本論文は、親局からのRTS(Request to Send)信号レベルに応じて各端末のCTS(Clear to send)信号の長さを受信状態によって可変にし、親局のCTSの受信状態に応じて変調方式や符号方式を逐次的かつ適応的に可変する方法を提案したもので、マルチキャスト伝送方式のためのプロトコル開発に関する研究である。高いスループットでかつ高信頼伝送が可能であることを解析ならびにシミュレーションによって示した。このことは実用性の高い成果であると評価できる。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成18年 第22回 入賞 論文番号:005

論文	著者	所属	評価
Robust Talker Direction Estimation Based on Weighted CSP Analysis and Maximum Likelihood Estimation  電子情報通信学会英語論文誌D分冊IEICE Transaction on Information and Systems, Vol.E89-D, No. 3, pp.1050-1057, May, 2006	傳田 遊亀 西浦 敬信 山下 洋一	和歌山大学大学院 システム工学研究科 修士課程2年 立命館大学 情報理工学部 助教授 立命館大学 情報理工学部 教授	マイクロホンアレーを用いた高品質音声受信において重要な話者方向推定の新たな手法を提案し、評価結果を通して提案法の有効性を評価したもので、音声の平均スペクトルに基づく重みを導入するとともに、雑音を空間的に抑圧することにより雑音に頑強な優れた方式としている。ハンズフリー音声入力技術に必要な重要要素技術として大きな貢献をした。

平成18年 第22回 入賞 論文番号:025

論文	著者	所属	評価
暗騒音と高調波ひずみに頑健なインパルス応答測定用信号: Warped-TSP  電子情報通信学会論文誌 A, Vol.J89-A, No.1, pp.7-14, Jan. 2006.	森勢 将雅 入野 俊夫 坂野 秀樹 河原 英紀	和歌山大学大学院システム工学研究科博士前期課程2年 和歌山大学システム工学部デザイン情報学科 名城大学理工学部情報工学科 和歌山大学システム工学部デザイン情報学科	線形時不変システムのインパルス応答を求めることは重要な課題であるが、音響機器や室内伝達特性のインパルス応答をそのまま求めることはインパルス関数の性質から難しい。ここではLin-TSP信号、Log-TSP信号を接続して両者の長所を併せ持つ新たな測定用信号 Warped-TSPを提案して、その有効性をいくつかの実験を通して評価している点が高く評価される。

平成18年 第22回 入賞 論文番号:037

論文	著者	所属	評価
光パケットネットワークのための適応的フロー制御プロトコルの公平性の評価 Fairness Evaluation of Adaptive Flow Control Algorithm for Optical Packet Networks  電子情報通信学会論文誌 B Vol.J89-B, No.12, pp.-, Dec.2006. 掲載予定 COIN-NGNCON 2006, WeA1-4, July 9-13, 2006, Jeju Korea	山本 洋之 繆 震 高橋 達郎	京都大学大学院情報学研究科修士課程1年 株式会社NTTドコモ 京都大学大学院情報学研究科 教授	本論文は、ウィンドウサイズに加えてパケット長を制御することで、定常的な廃棄発生環境下で高いスループットを達成し、電気ネットワークと光ネットワークの接合点で発生する様々な廃棄要因に適応的に動作するフロー制御プロトコルを提案したもので、プロトコル制御の多くのパラメータに地道な分析を積み重ねている。このことにより、複数の選択肢を網羅的に評価することで実現する解決方法を導き出したことは斬新なアイデアであると評価できる。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成18年 第22回 佳作 論文番号:021

論文	著者	所属	評価
Single-Carrier Transmission with Joint Tomlinson-Harashima Precoding and Frequency-Domain Equalization  The 3rd IEEE VTS Asia Pacific Wireless Communications Symposium (APWCS 2006), pp. 262-266, Daejeon, Korea, 24-25, Aug. 2006.	武田 一樹 留場 宏道 安達 文幸	東北大学大学院 工学研究科 電気・通信工学専攻博士課程 前期1年 東北大学大学院 工学研究科 電気・通信工学専攻博士課程 後期1年 東北大学大学院 工学研究科 教授	本論文は、単一搬送波無線伝送路におけるISI(符号間干渉)の抑圧方法の提案をしている。従来、こうした抑圧方法には周波数領域等化(FDE)が利用されるが、残留ISIが生じる。そこで、本論文では、FDEにトリムソン-原島前置等化(THP)を併用して、残留ISIを抑圧する新たな方法を生み出しており、高く評価できる。

平成18年 第22回 佳作 論文番号:075

論文	著者	所属	評価
UbiREAL: Realistic Smartspace Simulator for Systematic Testing  口頭発表(The 8th International Conference on Ubiquitous Computing (UbiComp2006))	西川 博志 山本 真也 玉井 森彦 西垣 弘二 木谷 友哉 柴田 直樹 安本 慶一	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士前期 課程1年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士前期 課程2年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士後期 課程2年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士後期 課程2年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科助手 滋賀大学情報管理学科助教 教授 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科助教授	多数の情報通信機器を要求に合わせて適切に制御する応用を高信頼かつ低コストで開発するために、3次元仮想空間を用いたシミュレータを提案し、それによって、スマートスペースの設計支援、可視化、通信や物理量のシミュレーション、応用ソフトウェアの系統的なテストなど、多くの機能を備え実用的なものを実現した。研究室チームの合作であるが、新規性に富みチャレンジ性の高い優れた仕事である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成19年 第23回 入賞 論文番号:038

論文	著者	所属	評価
Webを対象としたロボット型住所関連情報検索システムの開発  (社)電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌 D Vol. J90-D No.2, 2007年2月	森本 泰貴 藤本 典幸 長屋 務 出原 博 萩原 兼一	大阪大学大学院情報科学研究科博士前期課程1年 大学院生 大阪大学大学院情報科学研究科 助教授 大阪大学大学院情報科学研究科博士前期課程2年 大学院生 大阪大学大学院情報科学研究科博士前期課程2年 大学院生 大阪大学大学院情報科学研究科 教授	Web上の膨大な情報から、欲しい情報だけを検索するエージェント型システムの開発である。この論文では、登録型サイトの情報ではなく、登録されていない情報をも検索可能とする手法として、ロボット型の施設検索システムを開発している。面白いアイデアで、実際にソフトウェアとしても実現しており、優れた、有効性ある提案となっている。

平成19年 第23回 入賞 論文番号:076

論文	著者	所属	評価
[1]Disaster Evacuation Guide: Using a Massively Multiagent Server and GPS Mobile Phones [2]大規模シミュレーション基盤におけるプロトコル記述とエージェントの分離  [1]IEEE Computer Society, The 2007 International Symposium on Applications and the Internet (SAINT-07), 2007年1月[2]電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌, Vol.J89-D, No.10., 2006年10月	中島 悠 椎名 宏徳 山根 昇平 八槇 博史 石田 亨	京都大学大学院 情報学研究科 修士課程2回生 京都大学大学院 情報学研究科 修士課程2回生 京都大学大学院 情報学研究科 修士課程1回生 京都大学大学院 情報学研究科 講師 京都大学大学院 情報学研究科 教授	実験には大きなコストを必要とする、避難誘導システムのような大規模社会情報システムの開発支援を目標として、分析環境の設計と実問題への適用を行っている。システムの利用者を模倣したエージェントシミュレーションの結果を被験者に伝達することで、小規模の実験により大規模システムをテストすることができることを明らかにしており、高く評価できる。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成19年 第23回 入賞 論文番号:031

論文	著者	所属	評価
<p>[1]Advanced Wavelength Reservation Method based on Deadline-Aware Scheduling for Lambda Grid Networks [2]A Deadline-Aware Scheduling Scheme for Wavelength Assignment in <math>\lambda</math> Grid Networks</p> <p>[1]IEEE/OSA Journal of Lightwave Technology, 2007年10月[2]IEEE International Conference on Communications 2007 (ICC2007), 2007年6月</p>	<p>宮城 洋之 林谷 昌洋 石井 大介 荒川 豊 山中 直明</p>	<p>慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程1年 学生 慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程2年 学生 慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程2年 学生 慶應義塾大学大学院理工学研究科 助教 慶應義塾大学工学部情報工学科 教授</p>	<p>WDMを用いた入グリッドネットワークにおいて、本論文では、スケジューリングにデッドラインを考慮した方法を提案し、仮予約というメカニズムを導入することにより、リソースの利用効率が、従来よりも飛躍的に向上すること、特に負荷が低い場合にブロッキング確率を二桁程度低下可能なことを示し、新規性、有効性に優れている。</p>

平成19年 第23回 入賞 論文番号:033

論文	著者	所属	評価
<p>[1]A Middleware for Implementation and Evaluation of Application Layer Multicast Protocols in Real Environments [2]アプリケーション層マルチキャストプロトコルの設計開発および性能評価を支援するミドルウェアの設計と実装 [3]アプリケーション層マルチキャストミドルウェアの実装とPlanetLab 上での評価</p> <p>[1]The Association for Computing Machinery (ACM), Proceedings of the 17th International Workshop on Network and Operating Systems Support for Digital Audio and Video (NOSSDAV 2007), 2007年6月[2]情報処理学会, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2007) シンポジウム, 2007年7月[3]情報処理学会, 情報</p>	<p>池田 和史 Thilmee M. Baduge 梅津 高朗 山口 弘純 東野 輝夫</p>	<p>大阪大学大学院情報科学研究科博士前期課程(修士課程)2年 学生 大阪大学大学院情報科学研究科博士後期課程(博士課程)3年 学生 大阪大学大学院情報科学研究科 助教 大阪大学大学院情報科学研究科 准教授 大阪大学大学院情報科学研究科 教授</p>	<p>従来難しかった共通の実環境プラットフォームで複数のプロトコルを容易に比較・評価するためのさまざまな支援機能を提案し、そのミドルウェアを実現したことは、学生の研究業績として高く評価する。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成19年 第23回 入賞 論文番号:044

論文	著者	所属	評価
<p>[1]情報セキュリティ工学データベースシステムISEDSの開発と応用</p> <p>[2]ISO/IEC 15408に基づく情報セキュリティ要求管理データベース[A Web User Interface of the Security Requirement Management Database based on ISO/IEC 15408][A Security Requirement Management Database Based on ISO/IEC 15408]</p> <p>[1]情報処理学会, 情報処理学会論文誌, 2007年8月[2]日本データベース学会, 日本データベース学会 Vol.4 No.3, 2005年12月[3]Springer-Verlag, Lecture Notes in Computer Science Vol. 3994, 2006年5月[4]Springer-Verlag, Lecture Notes in Computer Science Vol. 3982, 2006年5月</p>	<p>堀江 大輔</p> <p>森本 祥一</p> <p>後藤 祐一</p> <p>程 京徳</p>	<p>埼玉大学 大学院理工学研究科 博士前期課程 1年次 学生 博士前期課程</p> <p>産業技術大学院大学 産業技術研究科 助手</p> <p>埼玉大学 大学院理工学研究科 助手</p> <p>埼玉大学 大学院理工学研究科 教授</p>	<p>情報システムにおけるセキュリティ機能の設計から保守に至る支援データベースを実現したものである。セキュリティ基準、公開事例、諸定義データなどを取めたもので、従来のプロトタイプを元を実現し評価を行っている。このようなシステムの実現は実務的な業績として評価できるものであり、有効性の高いシステムの開発となっている。</p>

平成19年 第23回 入賞 論文番号:050

論文	著者	所属	評価
<p>無線マルチキャストのための最適グループピング・アクセスポイント割り当てアルゴリズム</p> <p>電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌B, 2007年5月</p>	<p>河村 篤志</p> <p>寒川 知生</p> <p>新熊 亮一</p> <p>高橋 達郎</p>	<p>京都大学大学院 情報学研究科 修士課程1年</p> <p>京都大学大学院 情報学研究科 修士課程2年</p> <p>京都大学大学院 情報学研究科 助教</p> <p>京都大学大学院 情報学研究科 教授</p>	<p>無線マルチキャストを用いるとストリーミングなどを多くの端末に効率的に伝送できる。しかし、無線においては、端末ごとに受信品質が異なる。すべてを正常に受信できるようにするには、最悪なものに合わせる必要があるが、複数のアクセスポイントを利用できれば、各アクセスポイントの品質を異なるものにするだけで、この問題を解決できる。本論文はこの方法における最適端末グループピングと最適アクセスポイント割り当てを提案し、優れた特性を示し、新規性、有効性に優れている。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成20年 第24回 入賞 論文番号:073

論文	著者	所属	評価
<p>[1]An Off-line Algorithm to Estimate Trajectories of Mobile Nodes Using Ad-hoc Communication</p> <p>[2]無線端末の遭遇履歴情報を用いた移動軌跡推定手法の提案</p> <p>[3]無線端末の遭遇履歴情報を用いた位置トレース推定手法の提案</p> <p>[1]IEEE Computer Society, Proceedings of the 6th Annual IEEE International Conference on Pervasive Computing and Communications (IEEE PerCom 2008), 2008年3月</p> <p>[2]社団法人 情報処理学会, 情報処理学会論文誌(推薦論文), 2008年10月</p> <p>[3]社団法人 情報処理学会, マルチメディア分散協調とモバイル(DICOMO2008)シンポジウム論文集(</p>	<p>藤井 彩恵</p> <p>東野 輝夫</p> <p>山口 弘純</p> <p>梅津 高朗</p> <p>内山 彰</p>	<p>大阪大学 大学院情報科学研究科 博士前期課程2年 博士前期課程2年</p> <p>大阪大学 大学院情報科学研究科 教授</p> <p>大阪大学 大学院情報科学研究科 准教授</p> <p>大阪大学 大学院情報科学研究科 助教授</p> <p>大阪大学 大学院情報科学研究科 博士後期課程3年 博士後期課程3年</p>	<p>本論文は、アドホックネットワークを構成する各端末において蓄積された近隣端末の情報と遭遇履歴情報を用いて互いの位置情報を推定する手法(SA: Simulated Annealing)を提案し、シミュレーションとフィールドでの実機実験でその有効性を実証したものである。従来の手法に比し、その位置情報はより高い精度を低コストで得ることができ、実用性のみならず学術的に新規性あるものとして高く評価できる。</p>

平成20年 第24回 入賞 論文番号:039

論文	著者	所属	評価
<p>[1]Trellis shaping with flexible control of peak and average power for single-carrier high-order QAM</p> <p>[2]A simple modulation code with peak power reduction and coding gain</p> <p>[3]Iterative decoding of concatenated channel coding and trellis shaping based on</p> <p>[1]IEEE Global Communications Conference (GLOBECOM) 2008, 2008年12月</p> <p>[2]IEEE International Conference on Communications (ICC) 2008, 2008年5月</p> <p>[3]IEEE Global Communications Conference (GLOBECOM) 2007, 2007年12月</p> <p>[4]IEEE International Conference on Communic</p>	<p>棚橋 誠</p> <p>落合 秀樹</p>	<p>横浜国立大学 工学府 物理情報工学専攻 博士課程前期 2年 大学院生</p> <p>横浜国立大学 工学研究院 准教授</p>	<p>多値QAM変調などによる無線通信でピーク電力を抑えることは電力増幅器の効率を高めるためにも重要な課題である。本研究ではディジタル処理の段階でアナログ変調信号の正確な波形を捉え制御することにより、そのピーク電力を低減することに成功し、更に誤り訂正符号化を同時に行うことを提案している点は高く評価できる。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成20年 第24回 入賞 論文番号:070

論文	著者	所属	評価
<p>[1]デュアル周波数変換型マルチモード・マルチバンド受信機</p> <p>[2]ヘテロダイナマルチモード受信における決定的補償行列推定</p> <p>[1]社団法人 電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌, 2008年5月</p> <p>[2]社団法人 電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌(掲載決定), 2008年11月</p>	<p>林 大祐</p> <p>田野 哲</p> <p>古野 辰男</p> <p>守倉 正博</p>	<p>京都大学大学院情報学研究所 通信情報システム専攻修士課程2回生</p> <p>京都大学大学院情報学研究所 通信情報システム専攻 准教授</p> <p>NTTドコモ先進技術研究所 主任研究員</p> <p>京都大学大学院情報学研究所 通信情報システム専攻 教授</p>	<p>本論文は、ヘテロダイナ検波におけるイメージ信号除去手法としてヒルベルト変換器の周波数特性補償方法による受信機アーキテクチャを提案し、MMSE(Minimum Mean Square Error)規範にもとづく理論解析と計算機シミュレーションによりその有効性を確認したものである。このことはダイナミクススペクトルアクセスの実現に寄与するものと期待でき高く評価する。</p>

平成20年 第24回 入賞 論文番号:071

論文	著者	所属	評価
<p>[1]Incentive Mechanism for P2P Content Sharing over Heterogeneous Access Networks</p> <p>[2]Incentive-rewarding Mechanism for User-position Control in Mobile Services</p> <p>[3]Incentive-rewarding Mechanism for Radio Resource Control Based on Users' Contributions</p> <p>[1]電子情報通信学会, IEICE TRANSACTIONS on Communications, 2008年12月</p> <p>[2]電子情報通信学会, IEICE Transactions on Communications, 2008年10月</p> <p>[3]IEEE(米国電気学会), IEEE Globecom 2008 Wireless Networking Symposium, 2008年11月</p>	<p>佐藤 健一</p> <p>吉野 信</p> <p>橋本 遼</p> <p>新熊 亮一</p> <p>高橋 達郎</p>	<p>京都大学大学院情報学研究所 修士課程1年 学生</p> <p>京都大学大学院情報学研究所 修士課程1年 学生</p> <p>京都大学工学部電気電子工学科4年 学生</p> <p>京都大学大学院情報学研究所 助教</p> <p>京都大学大学院情報学研究所 教授</p>	<p>モバイル端末が参加するP2P情報共有におけるインセンティブ機構についての提案である。外部評価機構と学習エージェントを利用して、動的に変化する状況への対応を可能とし接続環境に応じたインセンティブを提案したもので、従来の静的な環境を想定した研究からより進んだ汎用的な機構提案となっており、先駆的な研究である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成20年 第24回 入賞 論文番号:019

論文	著者	所属	評価
ゼロ詰め込みブロック伝送のための通信路短縮	会澤 知也 金子 喬介 宮嶋 照行	茨城大学 大学院 理工学研究科 システム工学専攻 博士前期課程1年  茨城大学 工学部 電気電子工学科 准教授	本論文はゼロ詰め込みブロック伝送方式において、マルチパス通信路による干渉を抑圧するため、時間領域等化器により見かけの通信路長を短縮する方式を提案したものである。理論的解析及び計算機シミュレーションにより、フラインド処理による通信路短縮という方法で干渉への影響が可能であることを示した点は高く評価できる。
社団法人 電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌(A), 2008年7月			

平成20年 第24回 入賞 論文番号:038

論文	著者	所属	評価
楽譜情報を援用した多重奏音楽音響信号の音源分離と調波・非調波統合モデルの制約付パラメータ推定の同時実現	糸山 克寿 後藤 真孝 駒谷 和範 尾形 哲也 奥乃 博	京都大学 大学院情報学研究科 知能情報学専攻 修士課程2年 産業技術総合研究所 情報技術研究部門 メディアインタラクショングループ 主任研究員 京都大学 大学院情報学研究科 知能情報学専攻 助教 京都大学 大学院情報学研究科 知能情報学専攻 准教授 京都大学 大学院情報学研究科 知能情報学専攻 教授	音楽音響信号と楽譜情報とから、音響信号を楽曲パート毎に分離して出力することを目的として、ギターなど調波構造を有する楽器とドラムなどそれを有しない楽器それぞれの構造モデルを統合したモデルを考案し、そのモデルを用いた新しい音源分離手法を提案したもので、従来困難であった混合音の分離を可能にした優れた手法の提案である。
社団法人情報処理学会, 情報処理学会論文誌, 2008年3月			

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成20年 第24回 入賞 論文番号:028

論文	著者	所属	評価
<p>Performance Consensus Problem of Multi-agent Systems with Multiple State Variables</p> <p>電子情報通信学会, IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Science, 2008年9月</p>	<p>林 直樹</p> <p>潮 俊光</p>	<p>大阪大学 大学院基礎工学研究科 博士前期課程2年 大学院生</p> <p>大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授</p>	<p>エージェント間の局所的な情報交換により、全てのエージェントがある情報に関してコンセンサスを達成することを目的とする問題において、エージェントの状態と評価値が非線形な一般的なシステムの扱い方を示すとともに、リアルタイムシステムの過負荷状態を回避し目次QoSレベルを公平化するための条件などを導出して、新しい一般的な手法を開発した。</p>

平成20年 第24回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>複数論点交渉問題におけるエージェントの公開範囲の調整に基づく交渉手段の実現(オリジナルタイトル:複数論点交渉問題におけるエージェントの効用空間の公開範囲に基づく交渉手段の実現)</p> <p>日本ソフトウェア科学会編集 岩波書店, 『コンピュータソフトウェア』Vol.25, No.4 (2008年10月号) 特集:エージェント, 2008年10月</p>	<p>藤田 桂英</p> <p>伊藤 孝行</p> <p>服部 宏充</p>	<p>名古屋工業大学 情報工学科 4年 学部生</p> <p>名古屋工業大学大学院産業戦略専攻・情報工学科 准教授</p> <p>京都大学大学院情報学研究科 助教</p>	<p>本論文は電子商取引などにおいて、ソフトウェアエージェントが相互に依存した複数論点がある交渉を行う問題を対象としている。プライバシー情報の公開を最低限に保ちながら最適な合意形成を行うため、合意案が発見できなかった場合各エージェントは入札閾値を下げ再交渉を行う方法で、計算量の削減も可能としている点は高く評価できる。</p>



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成21年 第25回 入賞 論文番号:048

論文	著者	所属	評価
<p>[1]Noise reduction combining time-domain <math>\varepsilon</math>-filter and time-frequency <math>\varepsilon</math>-filter</p> <p>[2]Noise reduction combining time-frequency filter and M-transform</p> <p>[3]Noise reduction utilizing cross time-frequency <math>\varepsilon</math>-filter</p> <p>[4]Parameter optimization in time-frequency filter</p> <p>[1]海外学会誌 The Journal of the Acoustical Society of America, 2007年11月</p> <p>[2]海外学会誌 The Journal of the Acoustical Society of America, 2008年8月</p> <p>[3]海外学会誌 The Journal of the Acoustical Society of America, 2009年5月</p> <p>[4]国際会議 International conference on signal proc</p>	<p>阿部 友実</p> <p>松本 光春</p> <p>橋本 周司</p>	<p>早稲田大学大学院先進理工学研究科物理学及应用物理学専攻修士課程1年</p> <p>早稲田大学理工学術院先進理工学部応用物理学科 助教</p> <p>早稲田大学理工学術院先進理工学部応用物理学科 理工学術院長</p>	<p>1 マイクロフォンで収録した音響信号の雑音抑圧は重要な課題である。本論文では従来時間領域で用いられていた非線形処理である<math>\varepsilon</math>-フィルタを、時間-周波数領域に拡張した新しい時間-周波数領域<math>\varepsilon</math>-フィルタを提案して、これにより少ない計算量で非定常な大振幅雑音の効果的な抑制を可能にしており、高く評価できる。</p>

平成21年 第25回 入賞 論文番号:008

論文	著者	所属	評価
<p>[1]エスパアンテナを用いた秘密鍵共有方式における盗聴耐性の高い鍵生成法</p> <p>[2]Information Reconciliation Using Reliability in Secret Key Agreement Scheme with ESPAR Antenna</p> <p>[3]Improvement of Key Agreement Scheme Using ESPAR Antenna</p> <p>[1]国内学会誌 電子情報通信学会論文誌 B, 2009年9月</p> <p>[2]国際会議 The First International ICST Conference on Security and Privacy in Mobile Information and Communication Systems (MobiSec 2009)2009年6月</p> <p>[3]国際会議 The 2008 International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP 200</p>	<p>清水 崇之</p> <p>岩井 誠人</p> <p>笹岡 秀一</p>	<p>同志社大学大学院工学研究科博士前期課程2年</p> <p>同志社大学理工学部電気電子工学科 准教授</p> <p>同志社大学理工学部電気電子工学科 教授</p>	<p>電波伝搬特性とエスパアンテナを利用した無線通信の秘密鍵共有方式において、従来の課題であった雑音による鍵の不一致を効率的に改善する手法と、盗聴に対する耐性を向上させる手法とを提案した論文である。シミュレーションにより総合的な評価を行って有効性を具体的に明らかにしており、着実で優れた研究である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成21年 第25回 入賞 論文番号:021

論文	著者	所属	評価
<p>[1]架空名義操作不可能な組合せオークションの割当規則の特性</p> <p>[2]Characterizing False-name-proof Allocation Rules in Combinatorial Auctions</p> <p>[3]架空名義操作不可能な組合せオークションの割当規則の特性</p> <p>[4]組合せオークションのための架空名義操作不可能なメカニズムの特性</p>	<p>東藤 大樹</p> <p>岩崎 敦</p> <p>横尾 真</p> <p>櫻井 祐子</p>	<p>九州大学大学院 システム情報科学府 知能システム学専攻 情報認識システム講座 修士課程 1年</p> <p>九州大学大学院 システム情報科学研究院 助教</p> <p>九州大学大学院 システム情報科学研究院 教授</p> <p>九州大学大学院 システム情報科学府 日本学術振興会特別研究員 (RPD)</p>	<p>電子商取引の一分野であるインターネットオークションでは、架空名義入札による不正な利益増加が問題となる。本論文は架空名義入札によって利益を増加できないようにオークションメカニズムを満たすべき条件を明らかにして、従来のシステムの問題点を指摘したもので、今後のオークションメカニズムの設計に有用であり、高く評価できる。</p>
<p>[1]国内学会誌 電子情報通信学会和文論文誌 ソフトウェアエージェントとその応用特集号、2009年11月</p> <p>[2]国際会議 The Eighth International Conference on Autonomous Agents and Multiagent Systems2009年5月</p> <p>[3]国内会議 第23回 人工知能学会全国大会2009年6月</p> <p>[4]国内会議 合同エージェントワークショップ&amp;シンポジウム20082008年10月</p>			

平成21年 第25回 佳作 論文番号:023

論文	著者	所属	評価
<p>[1]Waveguide-type Optical Circuit for Recognition of Optical QPSK Coded Labels in Photonic Router</p> <p>[2]Waveguide-Type Optical Circuit for Multi-Bit Address Recognition of Optical QPSK Labels in Photonic Router</p> <p>[3]Wavelength Dependence of Waveguide-Type Op</p>	<p>牧本 宜大</p> <p>日浦 人誌</p> <p>後藤 信夫</p> <p>柳谷 伸一郎</p>	<p>徳島大学 工学部 光応用工学科 後藤研究室 学生(学部4年)</p> <p>徳島大学大学院 先端技術科学教育部 システム創生工学専攻 光システム工学コース 後藤研究室 学生(博士後期課程1年)</p> <p>徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部 教授</p> <p>徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部 助教</p>	<p>光パケットルーチング処理はフォトニックネットワーク実現のための重要な課題である。本研究では、4相光位相変調符号に対応した全光ラベル識別を行う光回路を提案して、その識別能力を理論およびシミュレーションで確認するとともに、回路を多段に組み合わせることでビット数の多いラベルも識別可能であることを示している。</p>
<p>[1]海外学会誌 IEEE/OSA, Journal of Lightwave Technology, 2009年1月</p> <p>[2]国際会議 The 21st Annual Meeting of The IEEE Lasers &amp; Electro-Optics Society(IEEE/LEOS 2008)2008年11月</p> <p>[3]国際会議 Opto-Electronics and Communications Conference (OECC) 20092009年7月</p> <p>[4]書籍 IN-TECH, Au</p>			

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成21年 第25回 佳作 論文番号:035

論文	著者	所属	評価
<p>[1]Introducing Group Participation Support into P2P Web Caching Systems [2]グループの概念を取り入れたP2Pウェブキャッシングシステムに向けた考察</p> <p>[1]国際会議 International Conference on Advanced Information Networking and Applications2009年5月 [2]国内会議 火の国情報シンポジウム(情報処理学会九州支部)2008年3月</p>	<p>岩丸 晃大 糸川 剛 北須賀 輝明 有次 正義</p>	<p>熊本大学大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻博士前期課程1年 熊本大学大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻助教 熊本大学大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻准教授 熊本大学大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻教授</p>	<p>本論文は、P2Pウェブキャッシングシステムにおいて、グループビンの概念を取り入れ、グループのキャッシュとシステム全体のキャッシュに分けて利用する方式を提案し、シミュレーションによって、グループに参加しているピアは参加していないピアより高いヒット率を得ることを明らかにした。本方式ではグループに参加することが高ヒット率のメリットがあるため多くのピアをキャッシュシステムに誘致できる利点があるところに新規性がある。</p>

平成22年 第26回 入賞 論文番号:030

論文	著者	所属	評価
<p>[1]光パケットネットワークにおけるシェーピング機能付きファイバ遅延線バッファの提案 [2]Evaluation of Fiber Delay Line Buffers with Traffic Shaping Function for Optical Packet Networks [3]可変長パケットにおける可変遅延線を用いたファイバ遅延線バッファの構成法</p> <p>[1]国内学会誌 社団法人電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌B, 2010年9月 [2]国際会議 Asia-Pacific Conference on Communications2010年11月 [3]国内学会誌 社団法人電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌B(条件付採録)</p>	<p>小津 喬 岩井 真人 高橋 達郎</p>	<p>京都大学大学院情報学研究科修士課程1年 学生 京都大学大学院情報学研究科修士課程2年 学生 京都大学大学院情報学研究科 教授</p>	<p>光パケットネットワークにおける光パケットの衝突回避手法としてシェーピング機能付きファイバ遅延線をバッファとして用いる手法を提案し、パケット破棄率の低減とスループット向上についてシミュレーションにより有効性を示しており、有用な研究と評価できる。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成22年 第26回 入賞 論文番号:062

論文	著者	所属	評価
<p>A superimposing acceleration and optimization method of optical reconfiguration speed without any increase of laser power</p> <p>海外学会誌 Applied Optics, Vol. 49, No. 22, pp. 4120-4126, 2010., 2010年8月</p>	<p>間瀬 隆之 渡邊 実</p>	<p>静岡大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 博士前期課程1年 静岡大学 工学部 電気電子工学科 准教授</p>	<p>光再構成型ゲートアレイにおいて、照射レーザーのパワーを上げることなく回路のプログラム時間を短縮する手法を提案したもので、複数のホログラム回路記憶領域に同じ回路情報を記録し、レーザーを同時点灯させることで、助け合いにより高速化する手法である。今後可能となるであろう大規模なゲートアレイのプログラム方式として有効な実装法の提案となっている。</p>

平成22年 第26回 入賞 論文番号:043

論文	著者	所属	評価
<p>Radiation Characteristics of a Planar Monopole Antenna Integrated with a 60 GHz Band WPAN Module Using Organic Substrates</p> <p>国際会議 4th European Conference on Antennas and Propagation 2010年4月</p>	<p>吉田 賢史 亀田 卓 高木 直 坪内 和夫</p>	<p>東北大学 電気通信研究所 坪内研究室 東北大学大学院 工学研究科 博士課程前期2年 東北大学 電気通信研究所 坪内研究室 東北大学 電気通信研究所 助教 東北大学 電気通信研究所 21世紀情報通信研究開発センター 東北大学 電気通信研究所 教授 東北大学 電気通信研究所 坪内研究室 東北大学 電気通信研究所 教授</p>	<p>ギガビットクラス無線通信の実用化に対して期待される60GHz帯無線伝送に適用可能なアンテナ一体型モジュールを開発している。広ビーム幅実現のためのモノポールアンテナの適用、低コスト化のための有機樹脂基板の採用、小型化のための3次元実装技術などの工夫が見られる。上記アンテナの設計、試作、評価に対する受賞者の貢献は多大であり、知識技術レベルは高いと判断される。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成22年 第26回 入賞 論文番号:012

論文	著者	所属	評価
Accurate Estimation of the Number of Weak Coherent Signals	辻 真志 梅林 健太 神谷 幸宏 鈴木 康夫	東京農工大学大学院 工学府 電気電子工学専攻 博士前 期課程2年 東京農工大学大学院 工学研 究院 助教 東京農工大学大学院 工学研 究院 准教授 東京農工大学大学院 工学研 究院 教授	アレーアンテナで電波の到来波数を精度良く推定することは重要であるが、計算量が大きという問題があった。本論文は計算量を削減するために提案されたMENSE法を改良して、相乗平均/相加平均を用いた多重度に着目した新たな推定法を提案して、近接波に対して到来波数推定精度が改善していることを示したものであり、高く評価できる。
国内学会誌 IEICE (Institute of Electronics, Information and Communication Engineers), IEICE TRANSACTIONS on Communications, 2010年10月			

平成22年 第26回 佳作 論文番号:020

論文	著者	所属	評価
[1]Enhancement of CSMA/CA and Network Coding in Single-Relay Multi-User Wireless Networks [2]Performance Analysis of a Two-hop Wireless Relay Network with CSMA/CA and Network Coding [3]2ホップCSMA/CA無線中継ネットワークに対するネットワークコーディングの性能解析 [4]CSMA/CAネットワークコーディングにお	黄 俊翔 梅原 大祐 田野 哲 守倉 正博 杉山 隆利	京都大学大学院情報学研究 科 通信情報システム専攻 修士課程2年 京都大学大学院情報学研究 科 助教 京都大学大学院情報学研究 科 通信情報システム専攻 准教授 京都大学大学院情報学研究 科 通信情報システム専攻 教授 NTTアクセスサービスシステム 研究所 主幹研究員	IEEE802.11に準拠した無線LANに関して、マルチホップネットワークによるカバーエリアとスループットを改善すべく、ネットワーク符号化を用いたシステムのスループット特性と各無線リンク間の通信優先度を最適化する制御手法を理論的に導出している。さらに、計算機シミュレーションにより上記理論解析の有効性を検証している。無線LANのCSMA/CAプロトコルに対して、新たな技術を提案し、実験とシミュレーションにより、有効性を検証したことは評価できる。
[1]国内学会誌 電子情報通信学会, IEICE Transactions on Communications(採録決定済み), 2010年12月 [2]国際会議 The 24th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications2009年7月 [3]国内会議 電子情報通信学会 情報ネットワーク研究会, 電子情報通信学会技術研究報告, 2009年7月 [4]国内会議 電子情報通信学			

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成23年 第27回 入賞 論文番号:021

論文	著者	所属	評価
A four-context programmable optically reconfigurable gate array with a reflective silver-halide holographic memory  海外学会誌 IEEE, IEEE Photonics Journal, 2011年8月	久保田 慎也 渡邊 実	静岡大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 博士前期課程2年 静岡大学 工学部 電気電子工学科 准教授	プログラマブルゲートアレイにホログラムメモリ技術を加えることにより多数の回路を高速に動的にプログラム可能な光電子融合デバイスの研究において、不揮発性のホログラムメモリ上に4つの回路情報を記録し、それらの回路情報をプログラマブルゲートアレイ上に動的に高速に実装可能なプログラマブル光再構成型ゲートアレイとそれに使用する専用のライターを初めて開発した研究であり、その論文は高く評価されるものである。

平成23年 第27回 入賞 論文番号:004

論文	著者	所属	評価
Performance Analysis of Burst Transmission Mechanism for IEEE 802.11-Based Multi-Hop Wireless LANs  海外学会誌 IEEE, IEEE Transactions on Wireless Communications, 2011年	田井中 智也 増山 博之 笠原 正治 高橋 豊	京都大学 大学院情報学研究科 システム科学専攻 修士課程2年生 京都大学 大学院情報学研究科 システム科学専攻 助教 京都大学 大学院情報学研究科 システム科学専攻 准教授 京都大学 大学院情報学研究科 システム科学専攻 教授	IEEE802.11e規格に具備されているTXOP機構を採用した3ノード直列無線マルチホップ網におけるバースト転送モードのスループットを、シミュレーションに基づく従来の多くの検討とは異なり、マルコフ解析に基づき理論的に導出したことは評価できる。本論文は、指導教員のもと受賞者が努力を重ねた結果を反映したものであることから、受賞者の貢献は大きく、知識レベルも高いと判断される。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成23年 第27回 入賞 論文番号:058

論文	著者	所属	評価
室内音響指標を用いた残響指標RSR-Dnに基づく残響下音声認識性能の予測	福森 隆寛 森勢 将雅 西浦 敬信 山下 洋一	立命館大学 大学院理工学研究科 博士課程前期課程1年 立命館大学 情報理工学部 助教 立命館大学 情報理工学部 准教授 立命館大学 情報理工学部 教授	残響環境下における音声認識性能を、認識実験によらずに、物理的な特徴から推定する手法として、インパルス応答で表された初期反射音と後続残響音のエネルギー比(D値)を用いることを提案した論文である。D値と音声認識率の関係を詳細に調べ、1次直線や2次曲線で近似することにより、精度の高い音声認識性能が予測できることを示しており、高く評価できる。
国内学会誌 電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌(D), 2011年4月			

平成23年 第27回 入賞 論文番号:057

論文	著者	所属	評価
CUDAとOpenGLを用いた3次元音響数値解析のGPGPUリアルタイム可視化—PMCC(Permeable Multi Cross-section Contours)の提案と評価—	河田 直樹 大久保 寛 田川 憲男 土屋 隆生 石塚 崇	首都大学東京大学院システムデザイン研究科 修士課程1年 首都大学東京大学院システムデザイン研究科 准教授 首都大学東京大学院システムデザイン研究科 教授 同志社大学理工学部 教授 清水建設技術研究所 研究員	3次元音響数値解析結果を実時間で可視化する手法を、GPUを用いて開発すると同時に、可視化手法として複数断面表示に不透過度を組み合わせた手法を提案した。従来のボリュームレンダリングなどと比して、計算負荷が少なく同時に表示結果の把握が容易という特長があり、GPUの利用と相まって実時間可視化を可能にした優れた研究である。
国内学会誌 電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌, 2011年11月			

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成23年 第27回 入賞 論文番号:013

論文	著者	所属	評価
<p>仮想伝搬路判定を用いた逐次復号法のための演算量低減法</p> <p>国内学会誌 電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌B(採択決定済み), 2011年12月</p>	<p>大西 遼太</p> <p>田野 哲</p> <p>梅原 大祐</p> <p>守倉 正博</p>	<p>京都大学大学院情報学研究科 通信情報システム専攻 修士課程1年</p> <p>京都大学大学院情報学研究科 通信情報システム専攻 准教授</p> <p>京都大学大学院情報学研究科 通信情報システム専攻 助教</p> <p>京都大学大学院情報学研究科 通信情報システム専攻 教授</p>	<p>MIMOでは受信アンテナの数を減らすことと、送信ストリーム数の増加に伴う演算量の増大に対処することが求められる。この研究は空間フィルタ生成手法について効率的な計算手法を考案すると同時に、復号アルゴリズムに対し逐次的に最適な検索法を提案した。その結果、大幅な演算量が削減され移動端末の消費電力削減を可能にした。</p>

平成23年 第27回 佳作 論文番号:051

論文	著者	所属	評価
<p>Localization using iterative angle of arrival method sharing snapshots of coherent subarrays</p> <p>海外学会誌 SpringerOpen, EURASIP Journal on Advances in Signal Processing, 2011年8月</p>	<p>川上 俊</p> <p>大槻 知明</p>	<p>慶應義塾大学大学院理工学研究科 修士課程2年</p> <p>慶應義塾大学理工学部 教授</p>	<p>本論文では、GPSの利用が困難な屋内における携帯端末などの位置推定の方法として、電波到来方向(AOA)を利用した仮想アレーの概念に基づく繰り返し位置推定法を提案している。計算機シミュレーションによる特性評価により、従来方式と比較して、低SNR領域において、推定精度が大幅に改善され、半数のアンテナで同程度の精度を得られるなどの成果を発表している。特許出願も行っており、受賞者のアイデアに大きく依存した論文内容であると判断される。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成24年 第28回 入賞 論文番号:015

論文	著者	所属	評価
Brillouin gain spectrum dependence on large strain in perfluorinated graded-index polymer optical fiber  海外学会誌 Optical Society of America (OSA), Optics Express, 2012年8月	林 寧生 水野 洋輔 中村 健太郎	東京工業大学 総合理工学研究科 物理情報システム専攻 修士課程2年 東京工業大学 精密工学研究所 助教 東京工業大学 精密工学研究所 教授	ガラスファイバと比較して、低コストで、高い柔軟性を有するプラスチック光ファイバ(POF: Polymer Optical Fiber)において発生するブリルアン散乱光の周波数シフトとストークスパワーの大歪依存性を実験的に解析している。受賞者は、ブリルアン散乱信号の周波数シフトの非線形応答を明らかにした。この成果は、POFの歪・温度分布センサーへの適用可能性を示唆しており、評価できる。

平成24年 第28回 入賞 論文番号:011

論文	著者	所属	評価
Musical-Noise-Free Speech Enhancement Based on Optimized Iterative Spectral Subtraction  海外学会誌 The Institute of Electrical and Electronics Engineers, IEEE Transactions on Audio, Speech, and Language Processing, 2012年9月	宮崎 亮一 猿渡 洋 井上 貴之 高橋 祐 鹿野 清宏 近藤 多伸	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 博士前期課程2年 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 准教授 ヤマハ株式会社 ヤマハ株式会社研究開発センター 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 教授 ヤマハ株式会社研究開発センター プログラムマネージャー	単一マイクロフォン入力に対する雑音抑圧手法は、ミュージカルノイズによる音質劣化を引き起こす。それを減らす手法として小さな抑圧を繰り返す手法が実験的に知られていたが、筆者は、雑音スペクトルの高次統計量に着目してミュージカルノイズの発生過程を定式化してそれが発生しない条件を導き出し、雑音抑圧理論を新たに提案した。大変優れたオリジナリティのある研究である。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成24年 第28回 入賞 論文番号:017

論文	著者	所属	評価
無線LAN中継ネットワークコーディングにおけるQoSを保証するMACプロトコル	中戸 裕基 守倉 正博 梅原 大祐 大槻 暢朗 杉山 隆利	京都大学 大学院情報学研究所 通信情報システム専攻 修士課程2年 京都大学 大学院情報学研究所 通信情報システム専攻 教授 京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究所 准教授 NTTアクセスサービスシステム研究所 研究員 NTTアクセスサービスシステム研究所 主幹研究員	中継局を介して複数のユーザ端末がアクセスポイントに接続するトポロジから構成され、IEEE802.11e規格に準拠したCSMA/CA(Carrier Sense Multiple Access with Collision Avoidance)プロトコルとネットワークコーディングを用いた2ホップ無線中継ネットワークを設定し、VoIPの伝送品質の維持とデータスループットの向上を両立させるQoS(Quality of Service)制御方式を提案している。受賞者は、課題の発見、方式の提案、有効性の評価に対して多大に貢献したと判断される。
国内学会誌 電子情報通信学会、電子情報通信学会論文誌D、 2012年5月			

平成24年 第28回 佳作 論文番号:041

論文	著者	所属	評価
TXOP Exchange: A Mechanism for Cooperation in CSMA Networks	西尾 理志 新熊 亮一 高橋 達郎 Narayan B Mandayam	京都大学大学院情報学研究所 修士課程2年 京都大学大学院情報学研究所 助教 京都大学大学院情報学研究所 教授 ラトガース大学 WINLAB 教授	現行の無線LANでは複数端末が同一の無線帯域を共有し、通信帯域は端末の要求スループットによらずに公平に分配される。その結果同時利用の端末数が増加すると端末当たりの通信帯域が不足し、すべての端末が不満足な通信に陥る。本論文では特定の端末間で通信帯域を貸し借りすることで端末のスループット要求を満たす方式を新たに提案し、シミュレーションにより様々な条件下で性能を評価している。本方式は貸し借りに参加しない端末のスループットに影響を与えることなく、特定の端末間で任意のスループットを柔軟に提供できることを確認しており、評価に値する論文である。
国内学会誌 電気情報通信学会、IEICE TRANSACTIONS on Communication、 2012年6月			

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成24年 第28回 佳作 論文番号:012

論文	著者	所属	評価
重み付き両側波帯変調方式によるパラメトリックスピーカの音質改善  国内学会誌 電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌(D), 2012年3月	生藤 大典 森勢 将雅 西浦 敬信	立命館大学 大学院理工学研究科 博士課程前期課程1年 立命館大学 情報理工学部 助教 立命館大学 情報理工学部 准教授	超音波をキャリアとして音響信号を変調し、鋭い指向性を得るパラメトリックスピーカが注目されているが、低域の再生が困難、倍音による歪の発生等の課題があった。本論文では、低域に対しては両側波帯方式、高域に対しては単側波帯方式を用いることにより、低域強調と倍音抑圧の両方を可能として、主観・客観評価実験により提案方式の有効性を確認しており、高く評価できる。

平成25年 第29回 入賞 論文番号:044

論文	著者	所属	評価
Semi-Blind Interference Alignment Based on OFDM over Frequency Selective X Channels  国際会議 IEEE International Conference on Communications (ICC) 2013 年6月	高井 真人 石橋 功至  ウオンヨンシン ヒヨソクイ  和田 忠浩	静岡大学大学院工学研究科 修士課程1年 電気通信大学先端ワイヤレスコミュニケーション研究センター 助教 College of International Studies, Dankook University 助教 School of Engineering and Applied Science, Harvard University Research Associate 静岡大学工学部電気電子工学科 准教授	本論文では、 $2 \times 2$ の送受信端末が、それぞれ独立な情報系列を送受信するX通信路を検討対象に、実用性を考慮したセミブラインド干渉アライメント方式を提案している。具体的には、OFDM伝送への提案技術の適用を可能にした上で、限定されたチャネル情報のみの利用と複数の受信アンテナの具備不要を実現するなど、従来から指摘されてきた課題を解決している点は評価できる。本論文に対する受賞者の貢献は、提案方式に対する数学的解析や計算機シミュレーションによる特性評価などの点で、多大であると判断される。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成25年 第29回 入賞 論文番号:011

論文	著者	所属	評価
<p>A Reduced-Complexity Heterodyne Multiband MIMO Receiver with Estimation of Analog Devices Imperfection in a Baseband Feedback Loop</p> <p>国内学会誌 電子情報通信学会, IEICE Transactions on Communications, 2013年6月</p>	<p>大田 智也 田野 哲 守倉 正博</p>	<p>京都大学 大学院情報学研究科 通信情報システム専攻 修士課程2年 岡山大学 大学院自然科学研究科 産業創成専攻 教授 京都大学 大学院情報学研究科 通信情報システム専攻 教授</p>	<p>本論文では、コグニティブ無線実現のために任意の無線周波数帯における通信を可能とする、低演算型のヘテロダインマルチバンドMIMO受信機の構成を提案している。実用性を念頭に入れ、フィードバックループで使用されるアナログ回路の性能を考慮した上で、ヒルベルト変換機の不完全性を有効に補償する信号処理技術を考案している。受賞者は、必要となる信号処理を理論的に解析するとともに、計算機上に提案アルゴリズムを構築して、その有効性を評価するなど、本論文に対する貢献は多大であると判断される。また、関連論文により、国際会議の賞を受けるなど、対外的にも受賞者に対する評価は高い。</p>

平成25年 第29回 佳作 論文番号:039

論文	著者	所属	評価
<p>Cell range expansion using distributed Q-learning in heterogeneous networks</p> <p>海外学会誌 Springer, EURASIP Journal on Wireless Communication and Networking, 2013年3月</p>	<p>工藤 聡倫 大槻 知明</p>	<p>慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程1年 慶應義塾大学理工学部情報工学科 教授</p>	<p>本論文は、携帯電話網において、小型アンテナからの受信電波強度とバイアス値の和と広域アンテナからの受信電波強度を比較し大きい方を選択する広域/小型アンテナ間リソース分配において、機械学習のQ学習を応用したバイアス値選択手法を提案し、シミュレーションにより効果を確認している。受賞者は、特に方式の提案、有効性の評価に対して多大に貢献したと判断される。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成26年 第30回 入賞 論文番号:001

論文	著者	所属	評価
Negative Surveys with Randomized Response Techniques for Privacy-Aware Participatory Sensing  国内学会誌 IEICE, IEICE TRANSACTIONS on Communications, 2014年4月	青木 俊介 瀬崎 薫	東京大学 情報理工学系研究科 電子情報学専攻 修士課程 2年 東京大学 空間情報科学研究センター 教授	本論文は、参加型センシングにおけるプライバシー保護を実現するために、データ摂動化技術である Negative Surveys と Randomized Response を組み合わせた MNS-RRT アルゴリズムを提案している。提案手法は、計算量を抑えた設計で、多次元かつ相関がありかつ連続値であるデータにも適用できる。これにより、スマートフォン等を活用した参加型センシングを安心して運用することが可能となり、有効性が高い。受賞者は本論文の大部分について、多大な貢献をしたと判断できる。

平成26年 第30回 入賞 論文番号:076

論文	著者	所属	評価
キャリア波と側帯波の分離放射によるオーディオスポット形成  国内学会誌 電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌(A), 2014年4月	松井 唯 生藤 大典 中山 雅人 西浦 敬信	立命館大学 大学院情報理工学研究科 博士課程前期課程 1年 立命館大学 大学院情報理工学研究科 博士課程後期課程 1年 立命館大学 情報理工学部 特任助教 立命館大学 情報理工学部 准教授	変復調を波の信号処理と見なしたとき、電磁波に比べて音波の研究は日本では少ない。本論文はキャリア波と側帯波を複数のパラメトリックスピーカから別々に放射し、音波の重なった地点にオーディオスポットを生成するという技術を提案評価している。従来技術の直線的指向性を「場もしくは点」に拡張してオーディオスポットの設定を柔軟に行えるようにし、この技術の利用範囲を広げた着想を評価したい。本論文に対する受賞者の貢献は、アルゴリズムの提案、システム実装、実験評価に関わっていることから、多大であり、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと判断される。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成26年 第30回 入賞 論文番号:054

論文	著者	所属	評価
帯域外漏洩電力制約下でのOFDM信号のピーク振幅抑圧に関する検討  国内学会誌 電子情報通信学会, 電子情報通信学会論文誌B, 2014年6月	日野 貴哉 牟田 修 古川 浩	九州大学大学院システム情報科学府情報知能工学専攻 修士課程2年 九州大学日本エジプト科学技術連携センター 准教授 九州大学大学院システム情報科学研究院 教授	本論文では、OFDM伝送において、帯域外漏洩電力と帯域内歪み電力を許容値以下に抑圧することを条件に、ピーク抑圧信号を逆位相で繰り返し加算する手法により、PAPRを低減する適応ピークキャンセラを提案し、計算機シミュレーションにより、その有効性を定量的に評価している。受賞者は、OFDMの原理を十分に理解した上で、PAPR抑圧に有効な方法を考案・評価するなど、本論文に対する貢献は多大であると判断される。

平成26年 第30回 佳作 論文番号:016

論文	著者	所属	評価
Unified Differential Spatial Modulation  海外学会誌 IEEE, IEEE Wireless Communications Letters, 2014年8月	石川 直樹 杉浦 慎哉	東京農工大学 工学部情報工学科4年 東京農工大学大学院 准教授	本論文では、MIMO伝送に関して、チャネル推定に基づく信号分離と異なる方式として、ユニタリ性とスパース性の両方の特徴を有するアンテナインデックス行列に基づく差動符号化空間変調を適用する方式を提案している。受賞者は、提案システム全体の設計と性能評価を主体的に実施するなど、本論文に対する貢献は多大であると判断される。また、国際会議の場において、関連論文の賞を受けるなど、対外的にも評価は高い。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成26年 第30回 佳作 論文番号:003

論文	著者	所属	評価
Parameter generation methods with rich context models for high-quality and flexible text-to-speech synthesis  海外学会誌 The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. (IEEE), IEEE Journal of selected topics in signal processing, Vol. 8, No. 2, 2014年4月	高道 慎之介 戸田 智基 志賀 芳則  サクティ サクリアニ ニュービッグ グラム 中村 哲	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 博士前期課程2年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授 情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所 主任研究員 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授	本論文はテキスト音声合成法に関する新しい方法を提案するものである。任意のテキストから音声を合成する手法として隠れマルコフモデル(HMM)による音声合成法が多数研究されているが、高い声質制御能力がある反面、音質に劣化を生ずる問題があった。本論文では分散共有フルコンテキストモデルを用いた音声パラメータの生成手法を適用し、HMMの有する柔軟な声質制御能力を保持しつつ音質の改善が可能な音声合成法を提案する。その方法の有効性を示す実験も十分行われており、ますます増加しているテキスト音声変換サービスに貢献する手法である。受賞対象学生は新しいテキスト音声合成の基本となるアイデアを提案し、その有効性を示す実験システムを構築するなど貢献度は極めて高く、テレコムシステム技術学生賞佳作にふさわしいと評価される。

平成26年 第30回 佳作 論文番号:043

論文	著者	所属	評価
VCG-equivalent in Expectation メカニズム  国内学会誌 日本ソフトウェア科学会, コンピュータソフトウェア, 2014年8月	藤田 悦誌 岩崎 敦 東藤 大樹 横尾 真	九州大学大学院システム情報科学府情報学専攻 修士課程1年 九州大学大学院システム情報科学研究院情報学部門 助教 九州大学大学院システム情報科学研究院情報学部門 学術研究員 九州大学大学院システム情報科学研究院情報学部門 教授	参加者の意志決定過程を示し、かつ個人情報(評価値)の露呈を最小にできる公開型のオークションは、インターネット社会では重要なサービスである。本論文では、高い評価値の参加者に商品販売するバレット効率性を満たし、平均的に正直戦略が最良となり、かつ不必要な個人情報の露呈を避ける公開型のオークションの設計(VCG-EE)が可能であることを理論的に証明している。さらに、TDDとFDDが共存する第4世代周波数オークションを応用例に選び、その有用性を示している。学生の寄与も高いと思われ、テレコムシステム技術学生賞佳作にふさわしいと判断される。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成27年 第31回 最優秀賞 論文番号:064

論文	著者	所属	評価
<p>Oversampled Graph Laplacian Matrix for Graph Filter Banks</p> <p>海外学会誌 The Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE), IEEE Transactions on Signal Processing, 2014年12月</p>	<p>崎山 亮恵</p> <p>田中 雄一</p>	<p>東京農工大学大学院 生物システム応用科学府 生物システム応用科学専攻 博士前期課程1年</p> <p>東京農工大学 大学院工学研究院 先端情報科学部門 准教授</p>	<p>グラフ信号処理は近年盛んに研究が進められている領域である。本論文は、k-彩色可能グラフを二部グラフでオーバーサンプリングする手法を提案し、この手法に基づいたグラフ信号処理が雑音除去等の信号処理において既存手法と比べて高SN比の結果を得ることができていることを示している。当該研究室の既発表の研究成果も踏まえているが、着想、理論展開、シミュレーションの大部分に関わっていると推薦者の言と、共著者も少ないことから、本論文に対する受賞者の貢献は大きいと判断される。</p>

平成27年 第31回 入賞 論文番号:059

論文	著者	所属	評価
<p>Optimal Coding of Generalized-Gaussian-Distributed Frequency Spectra for Low-Delay Audio Coder With Powered All-Pole Spectrum Estimation</p> <p>海外学会誌 IEEE, IEEE/ACM Transactions on Audio, Speech, and Language Processing, 2015年8月</p>	<p>杉浦 亮介</p> <p>鎌本 優</p> <p>原田 登</p> <p>亀岡 弘和</p> <p>守谷 健弘</p>	<p>東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻 修士2年</p>	<p>本論文は、高圧縮・低遅延の音響信号符号化として線形予測分析を拡張したスペクトル包括推定手法「累乗全極スペクトル推定(PAPSE)」の提案を行った。論文の学術的新規性が極めて高いと同時に、実用性も高く、一部の技術に関しては特許取得や3GPPの標準化の1つとして採用される等、短期間にグローバルかつ社会に対するインパクトを伴う多大な貢献があり、テレコムシステム技術学生賞に最もふさわしい論文である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成27年 第31回 入賞 論文番号:008

論文	著者	所属	評価
Can Critical-point Paths under Lp-regularization ( $0 < p < 1$ ) Reach the Sparsest Least Squares Solutions?  海外学会誌 Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE), IEEE Transactions on Information Theory, 2014年5月	JEONG Kwangjin 湯川 正裕 甘利 俊一	慶応義塾大学大学院総合デザイン工学専攻 修士課程1年 慶応義塾大学理工学部電子工学科 専任講師 独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター 特別顧問	圧縮センシングのように、画素間の関係を表す方程式が変数(画素)の数より少ない場合について最適解を求めるスパース最適化問題は、信号処理にとって重要な課題である。本論文は変数の0が最も多い最適解と原点を結ぶパスの存在を明らかにしたもので、今後のこの問題の解決に大きく貢献したものである。具体的応用について更に検討することを期待するが、研究として重要で受賞者の貢献も大きいことから、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと判断される。

平成27年 第31回 入賞 論文番号:044

論文	著者	所属	評価
Detecting hybrid and electric vehicles using a smartphone  国際会議 ACM Ubicomp 2014年9月	高木 雅 藤本 浩介 川原 圭博 浅見 徹	東京大学 大学院 情報理工学系研究科 修士1年 東京大学 工学部 電子情報工学科 学部4年 東京大学 大学院 情報理工学系研究科 准教授 東京大学 大学院 情報理工学系研究科 教授	本研究は、電気自動車の普及に伴い問題となる、事故を防止するためにモータが生成する高周波音をスマートフォン及び機械学習を用いて、高精度かつ早く通知する手法を確立すると同時に、プロトタイプを作成しフィールドにおいて実証する等、実用性の向上にも取り組んだ、きわめて有用で、オリジナリティが高く、チャレンジングで興味深い研究成果である。今後さらに技術を高め海外著名論文誌への投稿を望むことから、テレコムシステム技術学生賞の佳作とした。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成27年 第31回 入賞 論文番号:065

論文	著者	所属	評価
A Hardware-Trojans Identifying Method Based on Trojan Net Scoring at Gate-Level Netlist  国内学会誌 IEICE Transaction on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, 2015年12月	大屋 優 史 又華 山下 哲孝 岡村 利彦 角尾 幸保 後藤 敏 柳澤 政生 戸川 望	早稲田大学大学院基幹理工学研究科 修士課程2年 早稲田大学高等研究所 早稲田大学准教授 NECクラウドシステム研究所 研究員 NECクラウドシステム研究所 研究員 NECクラウドシステム研究所 研究員 早稲田大学理工学術院 早稲田大学教授 早稲田大学理工学術院 早稲田大学教授 早稲田大学理工学術院 早稲田大学教授	今後ますます重要性が高まる情報漏えいに対処する手法に関する論文である。本論文は、2つの特に優れた点がある。1つは、ハードウェアのトロイの木馬的な技術課題であり、新しくかつ比較的アプローチが少ないオリジナリティの高い研究である。もう1つは、世の中で多く用いられるAES, RSA暗号等、アルゴリズムに左右しない点をしっかり示しており、大きな波及的効果を持つ、実用上の貢献も多大である。今後、解読防止策の手がかりへの発展を期待し、テレコムシステム技術学生賞とした。

平成27年 第31回 佳作 論文番号:024

論文	著者	所属	評価
Multichannel Signal Separation Combining Directional Clustering and Nonnegative Matrix Factorization with Spectrogram Restoration  海外学会誌 The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. (IEEE) Signal Processing Society, IEEE/ACM Transactions on Audio, Speech, and Language Processing, vol.23, no.4, pp.654-669, 2015年4月	北村 大地 猿渡 洋 亀岡 弘和 高橋 祐 近藤 多伸 中村 哲	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 博士前期課程2年学生 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授 東京大学 大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻 客員准教授 ヤマハ株式会社 研究員 ヤマハ株式会社 研究員 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授	本論文は、ステレオ収録された音楽信号に対する音源分離技術として、方位クラスタリングとスペクトル修復付きSNMF (Supervised Nonnegative Matrix Factorization)を組み合わせた方法を提案している。さらに、音源を分離する能力と周波数成分の欠損成分を復元する能力の間にトレードオフが存在することを見出し、提案技術に適合性を与えることにも成功した。受賞者は、本研究に関連した様々なアイデアを考案し、膨大な量の関連実験を実施するとともに、多数の学会発表の実績から、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと判断される。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成28年 第32回 入賞 論文番号:066

論文	著者	所属	評価
Scalable Networks-on-Chip with Elastic Links Demarcated by Decentralized Routers	安戸 僚汰 松谷 宏紀 鯉淵 道紘 天野 英晴 中村 維男	慶應義塾大学 大学院理工学研究科 修士2年～後期博士課程1年 慶應義塾大学 工学部情報工学科 専任講師 国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系 准教授 慶應義塾大学 工学部情報工学科 教授 慶應義塾大学 工学部 訪問教授	本論文では、大規模、マルチコア化するLSI上のインタコネクションネットワークに、従来のバスではなくルータ機能を実装する際の遅延の問題を解決している。ルータ機能を詳細に分析し、分散、パイプライン構成を取ることで遅延のインパクトの解決を狙った極めてブレークスルーの大きい研究である。さらに、受賞者は日頃より国際会議等、アカデミックに積極的に活躍している。それらも高く評価し、テレコムシステム技術学生賞として表彰する。
海外学会誌 IEEE Transactions on Computers (採録予定、ただしIEEE Xplore Digital Libraryにて下記の発行・発表年月に公開済)、 2016年9月			

平成28年 第32回 入賞 論文番号:039

論文	著者	所属	評価
A Bit-Write-Reducing and Error-Correcting Code Generation Method by Clustering ECC Codewords for Non-Volatile Memories	古城 辰朗 多和田 雅師 柳澤 政生 戸川 望	早稲田大学 大学院基幹理工学研究科情報理工・情報通信専攻 修士課程1年 早稲田大学 基幹理工学部 助教 早稲田大学 理工学術院 教授 早稲田大学 理工学術院 教授	誤り訂正符号を用いて不揮発性メモリに書き込む場合、書き込みビット数が増加して消費エネルギーが増加するという課題がある。本論文では、符号語をクラスタリングすることにより、誤り訂正能力を維持しつつ平均書き込みビット数を削減して、エネルギー消費を削減できる方法を提案している。本論文は、新規性も高くかつ学生の貢献も大きいことから、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。
海外学会誌 IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, 2016年12月			

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成28年 第32回 入賞 論文番号:054

論文	著者	所属	評価
Self-Organization of Coverage of Densely Deployed WLANs Considering Outermost APs without Generating Coverage Holes  国内学会誌 電子情報通信学会, IEICE Transaction on Communications, 2016年9月	神矢 翔太郎 長嶋 圭太 山本 高至 西尾 理志 守倉 正博 杉原 智行	京都大学 大学院情報学研究科 修士課程1年 京都大学 大学院情報学研究科 修士課程2年 京都大学 大学院情報学研究科 准教授 京都大学 大学院情報学研究科 助教 京都大学 大学院情報学研究科 教授 アライドテレシス総合研究所	本論文では、無線LAN環境において、カバレッジホールの発生とAP(アクセスポイント)によるカバレッジエリアの重複を低減することによって、高いシステムスループットを実現する送信電力制御法を提案している。提案方式における大きな特徴である、AP間の協調によって非カバー領域と重複カバー領域を各々推定し、削減する方法と外部のAPの電力制御を制限し、非カバー領域の増加を防ぐ方法は、受賞者によるアイデアによるものであるとの推薦者の言から、本論文に対する受賞者の貢献は極めて大きいと判断される。

平成28年 第32回 佳作 論文番号:018

論文	著者	所属	評価
Reduced-Packet-Delay Generalized Buffer-Aided Relaying Protocol: Simultaneous Activation of Multiple Source-to-Relay Links  海外学会誌 IEEE, IEEE Access, 2016年7月	大岩 美春 杉浦 慎哉	東京農工大学 大学院工学府 情報工学専攻 博士前期課程1年 東京農工大学 大学院工学研究 院先端情報科学部門 准教授	本論文では、複数の中継ノードにバッファを具備した2ホップ無線協調通信ネットワークにおいて、システムオーバーヘッドの削減とパケット遅延の低減を実現すべく、ブロードキャスト性を利用したプロトコルを提案している。推薦者によると、受賞者が中心に、マルコフ連鎖に基づき提案プロトコル採用時の不稼働率とパケット遅延の理論値の導出に成功し、論文の価値を高めたとのことである。今後さらに技術を高め、若手研究者としてのなお一層の活躍を期待することから、佳作とした。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成28年 第32回 佳作 論文番号:061

論文	著者	所属	評価
Sarcasm Detection on Twitter: A Pattern-Based Approach  海外学会誌 IEEE, IEEE Access, 2016年9月	Mondher Bouazizi 大槻 知明	慶應義塾大学 大学院理工学研究科開放環境科学専攻 修士2年 慶應義塾大学 理工学部情報工学科 教授	本論文では、4種類の皮肉のパターンと特徴量を地道に数え上げ、それらを用いたTwitterの皮肉検出の高さを実証している。SNSの分析技術は情報通信分野の基盤であり、着想、実装、実データでの評価を学生が行い共著者も少ないことから受賞者の貢献は大きい。活発な学会発表も含めて、高く評価できる。

平成28年 第32回 佳作 論文番号:025

論文	著者	所属	評価
文書と音声解析に基づくプレゼンテーション動画の印象予測  国内学会誌 電子情報通信学会 電子情報通信学会論文誌D, 2016年8月	福島 悠介 山崎 俊彦 相澤 清晴	東京大学 大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻 修士課程1年 東京大学 大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻 准教授 東京大学 大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻 教授	本論文は、プレゼンテーション動画から聴衆が受ける印象を予測することを目的として、話の内容の特徴量、音声の特徴量等を用いて聴衆の印象を2クラス分類で推定する手法を提案している。実験により、ある印象を受けるか否かの識別では90%以上の精度で推定できることを明らかにしており、受賞者も研究構想の立案から実験まで大きく貢献していることから、高く評価できる。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成29年 第33回 最優秀賞 論文番号:061

論文	著者	所属	評価
<p>A Hardware-Trojan Classification Method Using Machine Learning at Gate-level Netlists Based on Trojan Features</p> <p>海外学会誌 IEICE, IEICE TRANSACTIONS on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences Vol.E100-A No.7, 2017年7月</p>	<p>長谷川 健人 柳澤 政生 戸川 望</p>	<p>早稲田大学大学院 基幹理工学研究科 情報理工・情報通信専攻 修士1年 早稲田大学大学院 基幹理工学研究科 情報理工・情報通信専攻 教授 早稲田大学大学院 基幹理工学研究科 情報理工・情報通信専攻 教授</p>	<p>本論文では、ハードウェアに組み込まれた悪意のある機能「ハードウェアトロイ」の検出手法を提案している。具体的にはトロイネットの特徴を表す5つの特徴量を求め、機械学習で感染しているか否かを識別する手法を提案して、最新のハードウェアトロイの識別方法と同等以上の結果が得られることを明らかにしている。機械学習適用面での学生の貢献は大きいと判断され、テレコムシステム技術学生賞最優秀賞にふさわしいと判断される。</p>

平成29年 第33回 入賞 論文番号:021

論文	著者	所属	評価
<p>Convex Optimization Based Signal Detection for Massive Overloaded MIMO Systems</p> <p>海外学会誌 IEEE, IEEE Transactions on Wireless Communications (誌面掲載時期は未定/最終稿はWeb掲載済み), 2017年8月</p>	<p>早川 諒 林 和則</p>	<p>京都大学大学院 情報学研究科 修士課程2年 京都大学大学院 情報学研究科 准教授</p>	<p>本論文では、受信アンテナ数が送信ストリーム数よりも少ない過負荷MIMO (Multiple Input Multiple Output) における信号検出を、SOVA (Sum-of-Absolute-Value) 最適化問題として定式化した後、さらにW-SOVA (Weighted-SOVA) 最適化問題に拡張し、凸最適化を利用して解く方法を提案している。コンピュータシミュレーションの結果、他の信号検出方法と比較して、ビット誤り率と計算時間の両面において優れていることを定量的に明らかにしている。本論文の要は本受賞者のアイデアによるとの推薦者の言から、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成29年 第33回 入賞 論文番号:057

論文	著者	所属	評価
Statistical Parametric Speech Synthesis Incorporating Generative Adversarial Networks  海外学会誌 IEEE, IEEE/ACM Transactions on Audio, Speech, and Language Processing	齋藤 佑樹 高道 慎之介 猿渡 洋	東京大学 大学院情報理工学系研究科 博士前期課程1年 東京大学 大学院情報理工学系研究科 特任助教 東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授	音声合成において、合成した人工音声と自然音声の違いが重要な問題になっている。本論文では、ニューラルネットワークの敵対的学習(GAN)の枠組みを導入して、合成音声と自然音声の識別器が区別できないよう合成音声の品質改善を行う手法を提案している。推薦者によるとこれらの提案は学生の貢献が大きく、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと判断される。

平成29年 第33回 入賞 論文番号:029

論文	著者	所属	評価
Multilevel NoSQL Cache Combining In-NIC and In-Kernel Approaches  海外学会誌 IEEE.Computer.Society, IEEE.Micro, 2017年10月	徳差 雄太 松谷 宏紀	慶應義塾大学理工学研究科 開放環境科学専攻 後期博士課程2年次 慶應義塾大学理工学部情報工学科 准教授	本論文では、データセンターにおけるKey-value Storeの電力効率を改善する、マルチレベルNoSQL階層化手法を提案し、FPGAによるハードとLinuxへのソフトの実装により検証している。推薦状で本人の貢献を明確に高く評価していること、多数の外部発表の実績から学生の貢献は大きいと判断した。実用的で良い研究であり、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。



## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成29年 第33回 佳作 論文番号:038

論文	著者	所属	評価
<p>Joint Transmission and Coding Scheme for High-Resolution Video Streams over Multiuser MIMO-OFDM Systems</p> <p>国内学会誌 The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers (IEICE), IEICE TRANSACTIONS on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, 2017年11月</p>	<p>田代 晃司</p> <p>Leonardo Lanante</p> <p>黒崎 正行</p> <p>尾知 博</p>	<p>九州工業大学大学院情報工学府情報工学専攻 博士後期課程1年</p> <p>九州工業大学大学院情報工学研究院電子情報工学研究系 助教</p> <p>九州工業大学大学院情報工学研究院電子情報工学研究系 准教授</p> <p>九州工業大学大学院情報工学研究院電子情報工学研究系 教授</p>	<p>本論文では、MU-MIMO (Multi User - Multiple Input Multiple Output) システムにおいて、個々のユーザ対応のブロック対角化後の固有ビーム伝送をスケラブル符号化と組み合わせる方法を提案し、特性評価により通信品質の改善を確認している。主幹のアイデア、コンピュータシミュレーションによる特性評価などは本受賞者のアイデアによるものであるとの推薦者の言から、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。</p>

平成30年 第34回 最優秀賞 論文番号:423

論文	著者	所属	評価
<p>Optimized Frameless ALOHA for Cooperative Base Stations with Overlapped Coverage Areas</p> <p>海外学会誌 IEEE, IEEE Transactions on Wireless Communications, 2018年11月</p>	<p>尾形 駿</p> <p>石橋 功至</p> <p>Giuseppe Thadeu Freitas de Abreu</p>	<p>電気通信大学 先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター 博士後期課程学生</p> <p>電気通信大学 先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター 准教授</p> <p>Jacobs University Bremen Professor of Electrical Engineering</p>	<p>本論文では、複数ベースステーション協調をベースとしたフレームレスALOHA方式を提案し、スループットの厳密な理論的表現を導出し、カバレッジエリアの重複を利用したダイバーシチ効果によりベースステーション台数の増加とともにスループットが大幅に改善することを確認している。本受賞者は理論の導出、特性評価、論文の執筆などに大きく貢献しており、テレコムシステム技術学生賞最優秀賞にふさわしいと評価される。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成30年 第34回 入賞 論文番号:411

論文	著者	所属	評価
A Low Power Soft Error Hardened Latch with Schmitt-Trigger-Based C-Element  国内学会誌 電子情報通信学会 (IEICE), IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, 2018年7月	田島 咲季 戸川 望 柳澤 政生 史 又華	早稲田大学 基幹理工学研究科 電子物理システム学専攻 助手・博士後期課程1年 早稲田大学 基幹理工学研究科 情報理工学専攻 教授 早稲田大学 基幹理工学研究科 電子物理システム学専攻 教授 早稲田大学 基幹理工学研究科 電子物理システム学専攻 教授	本論文は、トランジスタ数やノード数を削減し、省エネルギーを目指す新規の回路構成を提案している。さらに、本受賞者が中心となり、実験を通してその実現性を証明したきわめてブレイクスルーに富んだ論文である。その大きな成果と数多くの関連成果を考慮すると、学生賞のレベルを大きく超えた成果である。また、産業界との連携を開始し、今後の研究の発展と実用化を含め、日本の産業界への貢献を大きく期待するものである。

平成30年 第34回 入賞 論文番号:416

論文	著者	所属	評価
Enhanced F-RIT Protocol for Wireless Smart Utility Networks with High Traffic Bi-directional Communications  国内学会誌 電子情報通信学会, IEICE Transactions on Communications, 2018年12月	奥村 亮太 藤原 純 水谷 圭一 原田 博司	京都大学大学院情報学研究科 修士課程2年 京都大学大学院情報学研究科 博士後期課程3年 京都大学大学院情報学研究科 助教 京都大学大学院情報学研究科 教授	本論文では、Wi-SUN用プロトコルF-RITと比較して、高トラフィック時の通信成功確率を大幅に高めるeF-RITプロトコルを提案し、計算機シミュレーションに加えて、実機を用いた実験でも特性改善を確認している。本受賞者はF-RITの解析・評価を実施する中で改良方式を考案し、実機実験に至るまで携わったとの推薦者の言から、その実力と努力を十分に反映した研究内容であり、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成30年 第34回 入賞 論文番号:415

論文	著者	所属	評価
Mitigating Throughput Starvation in Dense WLANs through Potential Game-Based Channel Selection  国内学会誌 電子情報通信学会, IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, 2017年11月	伊 博 神矢 翔太郎 山本 高至 西尾 理志 守倉 正博 Abeysekera Hirantha	京都大学大学院情報学研究科 修士課程1年 京都大学大学院情報学研究科 修士課程2年 京都大学大学院情報学研究科 准教授 京都大学大学院情報学研究科 助教 京都大学大学院情報学研究科 教授 日本電信電話株式会社	本論文では、無線LANのCSMA/CAにおけるFIMスタベーションを解消する分散的チャネル割当て方式を提案するとともに、ポテンシャルゲーム理論にもとづき、数学的に当該チャネル割当ての収束性を証明した。本受賞者の貢献は、提案方式の設計とゲーム理論による証明とされている。また、国内外の学会に対するアカデミックな活動が顕著である点も考慮して、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。

平成30年 第34回 佳作 論文番号:406

論文	著者	所属	評価
A Causal Channel model for the Terahertz Band  海外学会誌 IEEE Microwave Theory and Techniques Society, IEEE Transaction on Terahertz Science and Technology, 2018年1月	辻村 和寛 梅林 健太 Joonas Kokkonieni Janne Lehtomaki 鈴木 康夫	東京農工大学 工学府 電子情報工学専攻 梅林研究室 博士後期課程 2年 東京農工大学 准教授 Centre for Wireless Communications, University of Oulu Postdoctoral researcher Centre for Wireless Communications, University of Oulu Adjunct Professor	本論文では、テラヘルツ帯の見通し内電波伝搬に関して、Kramers-Kronig 関係式に着目し、伝搬路に最小位相を適用することによって因果律を満足するインパルス応答を導出し、実測データとの比較により理論の妥当性などを検証している。本受賞者は地道な調査、実証実験、理論計算を通して、多角的にモデルを評価したとの推薦者の言から、その実力と努力を十分に反映した研究内容であり、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成30年 第34回 佳作 論文番号:407

論文	著者	所属	評価
Recovery of Block-Structured Sparse Signal Using Block-Sparse Adaptive Algorithms via Dynamic Grouping  海外学会誌 Institute of Electrical and Electronic Engineers, IEEE Access, 2018年9月	葉 臣 桂冠 徐 粒 大槻 知明	慶應義塾大学 後期博士課程 南京郵電大学 教授 秋田県立大学 教授 慶應義塾大学 教授	本論文では、大量の信号の処理のために、その時間領域あるいは周波数領域におけるスパース性に着目して計算効率をあげる手法の中で、新規性の高い大量の信号のスパース性を徹底的に利用するために、ブロックスパースな信号のグルーピング処理方式を提案している。本受賞者はその問題設定から提案、実装、評価を行い、多くの世界的なアカデミックな成果を上げており、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。今後は実用へのインパクトを望む。

平成30年 第34回 佳作 論文番号:409

論文	著者	所属	評価
Rigorous Analytical Model of Saturated Throughput for the IEEE 802.11p EDCA  国内学会誌 IEICE Transaction on Communications, 電子情報通信学会, 2019年4月	伊熊 真太郎 Zhetao Li Tingrui Pei Young-june Choi 関屋 大雄	千葉大学 融合理工学府 数学情報科学専攻 情報科学コース 博士前期課程2年 Xiangtan University professor Xiangtan University professor Ajou University Associate Professor 千葉大学 融合理工学府 数学情報科学専攻 情報科学コース 教授	本論文では、車車間通信・路車間通信システムを対象としたMACプロトコルのIEEE 802.11p Enhanced Distributed Channel Accessの挙動を正確に表現するマルコフモデルを提案し、飽和スループットに関する解析値とシミュレーション値を一致させることに成功した。問題点の発見、数理モデルの提案、評価までをほぼ一人で実施したという推薦者の言から、候補者の実力と努力を十分に反映した研究内容であり、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成30年 第34回 佳作 論文番号:420

論文	著者	所属	評価
<p>Prototyping of Smart Wearable Socks for Periodic Limb Movement Home Monitoring System</p> <p>国内学会誌 The Society of Fiber Science and Technology, Journal of Fiber Science and Technology, 2017年11月</p>	<p>江口 佳那</p> <p>南部 雅幸</p> <p>上島 一夫</p> <p>黒田 知宏</p>	<p>京都大学 大学院情報学研究所 社会情報学専攻 博士後期課程2年</p> <p>京都大学医学部附属病院 先制医療・生活習慣病研究センター 特定教授</p> <p>帝人フロンティア株式会社 新事業開発室 主事</p> <p>京都大学医学部附属病院 医療情報企画部 教授</p>	<p>本論文では、睡眠障害の一種である周期性四肢運動障害の在宅医療という社会ニーズを踏まえ、ソックスを利用することで患者自身が表面筋電を測定できるデバイスのプロトタイプを作成し、実際に表面筋電図の計測ができることを示している。ウェアラブルな医療端末やIoTの面で幅広い応用が期待され、研究の立案から論文執筆に至るまで本受賞者が主体的に行なっていることから、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。</p>

平成30年 第34回 佳作 論文番号:422

論文	著者	所属	評価
<p>ベゼル間の距離の短さを利用した超小型端末向けタッチジェスチャ</p> <p>国内学会誌 情報処理学会, 情報処理学会論文誌, 2016年7月</p>	<p>久保 勇貴</p> <p>志築 文太郎</p> <p>田中 二郎</p>	<p>筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻 博士前期課程1年</p> <p>筑波大学 システム情報系 准教授</p> <p>筑波大学 システム情報系 教授</p>	<p>本論文では、超小型端末向けの独創的かつ優れた1本指タッチパネル操作を提案し、実装・評価を行い、その有効性を立証している。従来のユーザインターフェースとの共存性も示されており、今後のスマートウォッチなどの入力方法に貢献するところが大きい。推薦者によると、本受賞者は本研究のアイデアの提案から論文執筆に至るまで大きく貢献しており、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成31年 第35回 最優秀賞 論文番号:404

論文	著者	所属	評価
Energy Compaction-Based Image Compression Using Convolutional AutoEncoder  海外学会誌 IEEE, IEEE Transactions on Multimedia, 2019年8月	程 正雪 孫 鶴鳴 竹内 健 甲藤 二郎	早稲田大学 基幹理工学研究科 博士後期課程2年 早稲田大学 理工学術院総合研究所 次席研究員 早稲田大学 基幹理工学研究科 博士後期課程3年 早稲田大学 教授	本論文は、畳み込みオートエンコーダを利用した画像圧縮アーキテクチャを提案し、従来手法の結果と比較した有効性を主観評価で示している。ニューラルネットワークのための正規化された符号化利得メトリックと、それをを用いたビット割り当て方法を提案した、ち密な構成の論文である。応募者の学会活動は他の候補者を大きく凌駕し、貢献も十分である。

平成31年 第35回 入賞 論文番号:401

論文	著者	所属	評価
R. Nakai and S. Sugiura, "Physical layer security in buffer-state-based max-ratio relay selection exploiting broadcasting with cooperative beamforming and jamming," IEEE Transactions on Information Forensics and Security, vol. 14, no. 2, pp. 431-444, Feb.  海外学会誌 IEEE, IEEE Transactions on Information Forensics and Security, 2019年2月	中井 陵太 杉浦 慎哉	東京農工大学 大学院工学府 情報工学専攻 博士前期課程1年 東京農工大学 大学院工学研究院 准教授	本論文では、2ホップ中継無線ネットワークにおける高秘匿・高信頼物理レイヤセキュリティ技術を提案し、秘匿性とパケット遅延に関する優れた特性を定量的に明らかにしている。本受賞者は、電波のプロードキャスト性を活用した中継ノードによる伝搬路制御の自由度向上に取り組み、中心となって技術提案を行い、理論解の導出に大きな役割を果たしたとの推薦者の言から、その実力と努力を十分に反映した研究内容であると判断される。

## 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術学生賞)受賞論文

平成31年 第35回 入賞 論文番号:410

論文	著者	所属	評価
Design and evaluation of quasi-Nyquist WDM networks utilizing widely deployed wavelength-selective switches	白木 隆太 森 洋二郎 長谷川 浩 佐藤 健一	名古屋大学 大学院工学研究科 情報・通信工学専攻 修士学生 名古屋大学 大学院 工学研究科 情報・通信工学専攻 助教 名古屋大学 大学院工学研究科 情報・通信工学専攻 准教授 名古屋大学 大学院工学研究科 情報・通信工学専攻 教授	本論文は、波長多重ネットワークの限られた周波数帯域を有効に利用するために、隣り合う波長分割多重信号間に存在するガードバンドを極限まで削減することで、大容量化を実現した。その手段としては、帯域不整合とスペクトル狭帯の問題を、光ノードにおける波長制御を波長群単位で管理しさらに隣接波長信号の配置を最適化する経路・波長制御アルゴリズムを考案し、これによりスペクトル狭帯が生じる蓋然性を最小化した。このことにより、従来方式と比較して通信容量を30%向上することを示すとともに、長距離伝送実験により世界で初めて実証した極めてすぐれた論文である。
海外学会誌 Optical Society of America, Optics Express, 2019年6月			

平成31年 第35回 佳作 論文番号:407

論文	著者	所属	評価
Joint Iterative Decoding of Spatially Coupled Low-Density Parity-Check Codes for Position Errors in Racetrack Memories	柴田 凌 細谷 剛 八嶋 弘幸	東京理科大学 工学研究科 経営工学専攻 修士課程2年 東京理科大学 工学部 情報工学科 講師 東京理科大学 工学部 情報工学科 教授	本論文は、同期誤りが発生するレーストラックメモリを隠れマルコフ型通信路としてモデル化し、通信路容量によって情報伝達の限界を明らかにした上で、その限界に近づく誤り訂正符号を提案し、効率的な復号法を開発すると共に性能評価を行なっている。推薦者によると、受賞者は研究の着想から論文執筆に至るまで大きく貢献しており、その実力と努力を十分に反映した論文であることから、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価される。
国内学会誌 一般社団法人電子情報通信学会, IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, 2018年12月			